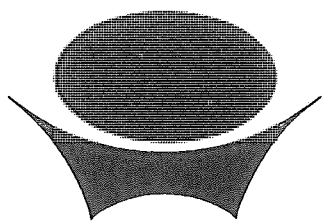


# 30周年記念誌



社会福祉法人

柏市社会福祉協議会

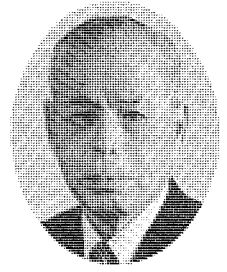
目次

発行にあたって	1
創立三十周年に寄せて(祝辞)	3
柏市の概要	7
歴代会長・役員一覧	9
社会福祉協議会のあゆみ	11
社会福祉協議会の思い出	27
社会福祉協議会の事業	33
福祉施設及び団体の紹介	63
地域ぐるみ福祉ネットワーク事業の概要	85

発刊にあたって

会長

松崎良太郎



# 発刊にあたって

社会福祉法人  
柏市社会福祉協議会長

松崎 良太郎

柏市社会福祉協議会が本年、創立三十周年を迎えることができ、ここにその記念誌の発刊をみる事ができましたことは、私の望外の喜びとするところであり、これもひとえに三十年もの永い間、当協議会の諸事業に深い御理解と、熱意ある御協力の御陰であると心より厚くお礼申し上げます。

創立当時の昭和三十一年は、四ヶ町村が合併し、市制施行したばかりであり、住民は未だ柏市民としての意識が定着していない状態でした。行政当局もまた市としての体制づくりが急務で、とかく中央の地区にその重点が置かれがちでした。

市になったとはいえ、現在のように都市化も進んでおらず、田中、富勢、土地区は農村地帯で、農繁期になると猫の手も借りたい程の、今日では想像もつかない状態でした。そんな中でやはり保育に欠ける幼児の存在をどうするかが課題であったのです。

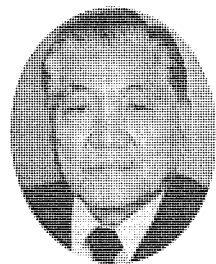
市の中心である柏地区には既に柏町時代から保育所が二ヶ所あり、幼稚園もみくに、くるみの両幼稚園がありましたが、行政面では学校建築が急がれ、保育までは十分に手が廻らず、ましてや幼稚園など望むべくもありませんでした。

そこで、当時社会福祉協議会長であり、市議の立場にもあった私は、周辺地区の幼児教育のレベルアップを図り、ひいては町村合併の効果をも示したいと願いました。といっても、直ちに常設の保育所建設は財政上困難でした。せめて農繁期だけでも保育所を開設して、その目的の一部でも果たせればと考え、季節保育所の設置を社会福祉協議会の初の事業として取り上げました。田中地区に三ヶ所（大室、船戸、大青田）、土地区に二ヶ所（増尾、藤心）、柏地区に二ヶ所（鴻巣、篠籠田）の設置をみる事ができ、当時の町会長さんを始め、町会の有志の方、そして寺院のご住職さん方の御協力を得て、当時としては、それ相当の実績をあげることができました。ここにあらためて当時の町会長さん、寺院のご住職さんに感謝申し上げます。

現在では、保育園が二十三園、幼稚園も二十八園が設置され、保育、幼児教育も発展をみており、誠に喜ばしい限りです。今日の社会福祉は三十年前とは随分違っており、社会情勢の変化により、一層複雑多岐に亘り、乳幼児から老人まで、全ての住民が対象であり、また担い手でもあります。特に現在、在宅福祉サービスが課題となっており、当協議会におきましても、地域の中に福祉の網の目を張り巡らせようと、地域ぐるみ福祉ネットワーク事業を実施してゆく計画であります。

今後とも熱意をもって福祉活動を展開してゆく所存ですので、皆様の御指導、御鞭撻の程をお願い申し上げます。発刊のこ

創立三十周年に寄せて  
(祝辞)



## 祝 辞

柏市長  
鈴木 眞

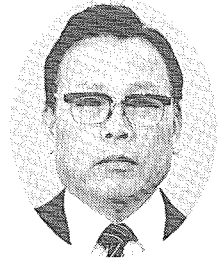
柏市社会福祉協議会の創立三十周年を、心からお喜び申し上げます。

昭和三十一年の発足以来今日に至るまで、地域福祉の充実・向上のためにひと方ならぬ御尽力をいただいております。代会長さんをはじめ役員・会員の皆様に対しまして、改めて深く敬意と感謝を捧げる次第です。

市民の誰もが安らぎと潤いに満ちた豊かな生活を営んでいくために、市民の健康と安全の確保、さらには恵まれない人達への手厚い保護は、欠かすことのできない重要な課題となっております。

常磐自動車道の都心直結、また常磐新線の市北部通過決定などにより、本市の交通便利は高まる一方にあります。こうした社会・経済の諸変化に的確に対応し、理想の都市像である「人間性豊かな生活文化都市」ふるさと柏を実現するために、本市は先頃基本計画の改定を行いました。市といたしましては新たな基本計画に基づき、地域福祉活動の充実をはじめ老人、母子、児童、障害者、低所得者層などの福祉の増進を図るため、今後ともより一層の努力をしてまいりたい所存です。社会福祉協議会におかれては、変わらぬ御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

柏市社会福祉協議会が地域福祉活動、また各種ボランティア活動の中核的組織としてさらにその意義を高め、心の豊かさ溢れた明るいふるさとの実現に大きな役割を果たされますことを心からお祈り申し上げます。祝辞といたします。



## 社会福祉協議会創立三十周年にあたって

柏市議会議長

直井 仁

柏市社会福祉協議会創立三十周年誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

貴協議会は昭和三十一年創立以来、本市の福祉行政を支える重要な柱の一つとして、障害者福祉事業・老人福祉事業・母子福祉事業等々を通じ、地域福祉の充実に大きな貢献をされてこられました。これも会員の皆様のあたたかい気持とボランティア精神の結晶であり、その功績は大変に大きなものがあります。会員の皆様、そしてその中心となって活躍してこられた会長さんを初めとする役員の皆様のご尽力に対し心より敬意を表するものであります。

日本は今、とても豊かになったと言われております。事実、世界有数の経済大国であり、文化的にも長い歴史とその地理的特性から独特の文化を有する世界に誇れる国に発展しました。

しかしながら、一步その実情に目を向けて見ますと、様々な問題点を抱えているのも事実であります。特に、社会福祉の充実は我が国が二十一世紀へ向けて大きく発展していくために、どうしても解決しなければならない課題であります。障害者問題・老人問題・母子家庭問題等、経済繁栄の陰にかくれ、とかく忘れられがちであったこれらの問題が、これからの社会にとっての最も重要な問題として大きくクローズアップされてきております。我々が目指す社会は全ての国民が豊かで安心して暮らせる社会をつくることです。

今後とも柏市社会福祉協議会の果たすべき役割は大変崇高かつ重大であります。創立三十周年を契機として、なお一層市民の幸福のため活躍されますことを期待します。

終わりに、柏市社会福祉協議会の益々の発展を祈念しましてお祝いの言葉といたします。



# 創立三十周年を祝す

千葉県知事

沼田 武

柏市社会福祉協議会が創立三十周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

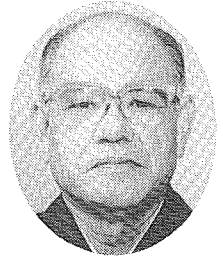
貴協議会は、昭和三十一年に発足し、その後昭和四十七年には、社会福祉法人に改組され、本県の中でも特に人口急増等社会変化の激しい地域にあって発足以来三十年にわたり、柏市の社会福祉の向上に寄与され多様な福祉需要に応えてこられました。

これは、柏市民の御理解と御協力に加え、歴代の役員、各団体の方々の御尽力のたまものと、心から敬意を表する次第です。いま本県は、五百万県民時代を迎え、活力と希望に満ちた、ふるさと千葉を築くため、昨年十二月に、新総合五か年計画である「ふるさと千葉五か年計画」を策定し、二十一世紀に向けた新しい千葉県づくりを進めております。この中の第一の重点施策に「福祉が充実し、健康に暮らせる千葉県をつくる」を掲げ、今後ますます高度化、多様化する県民の福祉需要に対応するため、行政機関と民間との有機的連携による福祉サービスのネットワークづくりを進めて行くこととしており、昭和六十一年を初年度とする地域ぐるみ福祉ネットワーク事業を県・市・町・村並びに社会福祉協議会を中心とした民間福祉団体との公私協働の精神をもって推進しているところであります。

今後、社会福祉協議会は、地域の福祉活動の中核組織として、ますますその重要性が高まってまいります。三十年の歴史に培われたボランティア活動、在宅福祉活動の実績を有する貴協議会の今後の活躍に大いに期待するものであります。

終わりに、今後とも市民が一体となった、ボランティア精神にあふれる心豊かな「ふるさと柏」が実現されることを、また、創立三十周年を契機として、柏市社会福祉協議会が、ますます発展されますことを祈念して、お祝いの言葉といたします。





# 三十周年記念誌発行に寄せて

千葉県社会福祉協議会会長

相原 徳 治

このたび柏市社会福祉協議会が創立三十周年を迎えられ、また記念誌を発行されますことは誠に意義深いことであり、心からお祝い申し上げます。

今日までの長い間、関係各位のご努力、ご活躍により発足以来幾多の障壁をのりこえ多くの実績を残され、柏市の中核的社會福祉団体として成長、発展されましたことは、まことに慶ばしいことでもあります。

柏市社会福祉協議会が発足した昭和三十年代は、社協の組織や基盤が明確ではなく、地域住民の福祉への関心も薄く、住民主体の福祉活動をすすめる社会福祉協議会にとっては大変厳しい時代でありました。

その後、日本は高度経済成長の時代を迎え、国民の生活水準も次第に向上してまいりましたが、急速な都市化現象、地域的な人口の急増、核家族化現象等はコミュニティの崩壊を招き又老人・児童・母子・父子等多くの福祉問題が派生し、社会福祉協議会の果すべき役割の重要性が急速に高まってまいりました。

特に昭和五十八年には、これら福祉問題の解決のために民間の社会福祉サービスが欠くことのできない重要なものとして理解され、念願であった社会福祉事業法の中に市町村社会福祉協議会が法制化され、民間社会福祉の中核として位置づけられ、近年地域住民の関心も高まってまいり、活動の成果が期待されているところであります。

千葉県におきましても、昭和五十一年から地域の人々が安心して生活できる福祉の風土づくりを目ざして地域ぐるみ福祉の運動を展開してまいりましたところ関係者の皆様のご努力により多くの実績をあげることができましたことについて深く感謝申し上げます。

昭和六十一年度からは更に「ふれあいと支えあいの福祉社会」を目ざして、公私の福祉サービスを有機的に連携させ、あらゆる階層の人々を結集し、より広範に、より高度な運動を展開するため「地域ぐるみ福祉のネットワーク事業」を推進することとなりました。

特に柏市社会福祉協議会は、人口二十七万余を擁する都市型社協として在宅福祉サービス事業、福祉ボランティアの育成等、その取り組みは県内においても高く評価されているところであります。

この三十周年を契機として、ますます柏市社会福祉協議会が発展されますことを期待して、お祝いのことばといたします。

# 柏市の概要

# 柏市の概要

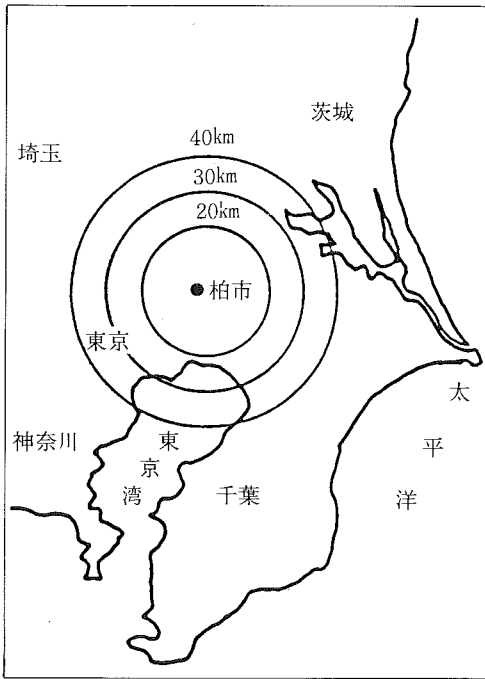
本市は、千葉県の北西部に位置し、隣接の野田市、流山市、我孫子市、松戸市、沼南町のほか周辺の市川市、船橋市、鎌ヶ谷市などを加えた東葛地域のほぼ中心である。

首都東京及び隣接県とは、北西部を通過する常磐自動車道と南西より東にのびる国道6号線、北西から南東に通る国道16号線によって結ばれ両国道は呼塚地区で立体交差している。鉄道では常磐線、東武野田線が走り、首都圏の一部としてみますます発展する位置にある。

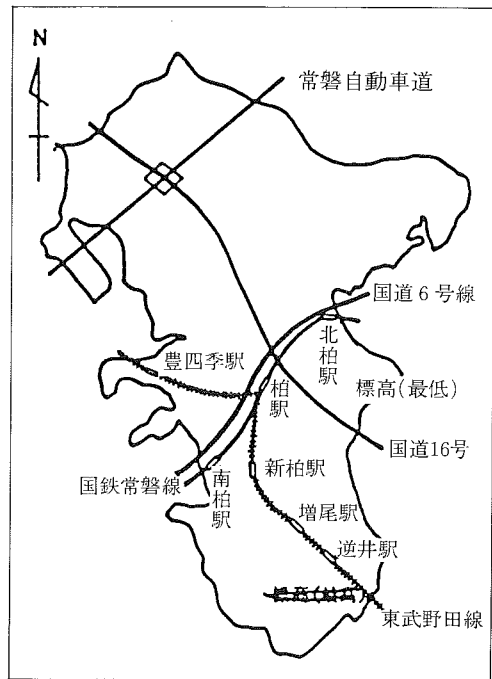
地形はほぼ平坦な台地状であるが、市中央部を流れる大堀川がこの台地を南北に二分している。

市の面積は、73km<sup>2</sup>あり、千葉県全面積の1.4%を占めている。気象は平均気温（年平均）14.3℃で比較的温暖である。

柏市位置図



柏市全図



柏市の位置及び全図

東端	東経	140° 2' 2"	(柏市弁天下地先)
西端	東経	139° 54' 59"	(柏市十余二字西原地先)
南端	北緯	35° 55' 58"	(柏市船戸山高野字江川地先)
北端	北緯	35° 47' 43"	(柏市逆井字高割地先)

歴代会長・役員一覽

社会福祉法人柏市社会福祉協議会歴代会長・役員一覧

歴代会長一覧

	会 長 名	就 任 期 間
初代会長	松 崎 良太郎	昭和31年8月 ~昭和49年7月2日
第二代会長	渡 部 豊 夫	昭和49年7月3日~昭和57年7月2日
第三代会長	松 崎 良太郎	昭和57年7月3日~現在

歴代役員一覧

	設 立 時 31年	法人取得時 47年	現 在 61年
会 長	松 崎 良太郎	松 崎 良太郎	松 崎 良太郎
副 会 長	田 中 貞 雄 田中 徳左衛門 後 藤 正 作	田 中 貞 雄 日 暮 甚 市	根 本 三 郎 桑 原 元 次
常務理事	戸 部 敏 一	伊 藤 紫 朗	泉 水 堯 和
理 事	高 橋 庄次郎 仲 澤 まさ乃 日 暮 甚 市 豊 島 陽 風 友 野 友 市 石 井 正 孝 伊 藤 紫 朗 戸 川 延 明 坂 卷 貞 子 多 田 秀 雄	高 橋 庄次郎 仲 澤 まさ乃 後 藤 正 作 豊 島 陽 風 友 野 友 市 石 井 正 孝 井 上 長 次 長 山 巍 坂 卷 貞 子 平 川 徳 之 多 田 秀 雄	川 野 正 夫 仲 澤 まさ乃 岸 本 健 一 神 林 保 夫 鳥 羽 達三郎 平 野 重 雄 中 島 零 子 小 菅 一 雄 齐 藤 吉 永 渡 辺 一 雄 市 村 友 衛
監 事	及 川 清 吉 染 谷 喜 市	及 川 清 吉 染 谷 喜 市	長谷川 強 海 津 金 信

社会福祉協議会のあゆみ

# 柏市社会福祉協議会のあゆみ〔年表〕

年 度	月 日	社会福祉協議会のあゆみ	月 日	市及び世論動向
昭和31年度 (一九五六)	7 6 30 12	<p>柏市社会福祉協議会結成準備委員会発足</p> <p>柏市社会福祉協議会創立総会が開催され柏市社会福祉協議会が発足 教育会館にて一三〇名参加</p> <p>初代会長に松崎良太郎氏就任 会員二〇〇人・会費一人30円</p> <p>老人慰問実施(市内九地区・各小学校にて10月15日迄)</p> <p>参加者六七一人</p> <p>季節保育所開所(11月15日閉所)</p>		
昭和32年度 (一九五七)	9 7 5 22 19 29	<p>第二回総会 於・柏一小講堂</p> <p>柏市社会福祉協議会社会福祉振興地区を設定</p> <p>敬老会開催(市内十地区にて10月20日迄)</p> <p>対象者一、二七九人・参加者八四二人</p>	3 11 29 14	<p>柏市傷痍軍人会結成発起人会</p> <p>柏市敬老年金給付条例公布</p>
昭和33年度 (一九五八)	9 5 21 29	<p>第三回総会 於・柏一小講堂</p> <p>敬老会開催(市内十地区にて10月15日迄)</p> <p>参加者九一二人</p>	11 5 4 27 10	<p>柏市身体障害者福祉会結成</p> <p>敬老年金の給付はじまる</p> <p>柏市母子福祉資金貸付条例公布</p>
昭和34年度 (一九五九)	1 10 9 8 27 4 8 11	<p>代議員会 於・香取神社社務所</p> <p>組織拡充計画を立てて会員募集に着手</p> <p>老人慰安会開催(市内四地区にて11月22日迄)</p> <p>老人慰安会開催(28日迄) 於・柏館 参加者五一六人</p>	12 12 18	<p>豊四季光風園落成式</p> <p>柏市母子福祉推進員協議会発足</p>
昭和35年度 (一九六〇)	9 6 11 23	<p>代議員会 於・香取神社社務所</p> <p>老人慰安会開催(市内四地区にて10月25日迄)</p>	3 31	<p>精神薄弱者福祉法制定</p>

昭和36年度 (一九六一)	10 8 6 10 20 29	代議員会 於・香取神社社務所 心配ごと相談所開設 場所・山崎薬局三階 老人慰安会開催(市内五地区にて10月23日迄)			
昭和37年度 (一九六二)	9 8 15 1 8	代議員会 於・中央公民館 結婚五十年老人世帯調査(9月20日迄) 老人慰安会開催(市内五地区にて10月28日迄)		10 10	手足の不自由な子供を守る会発足
昭和38年度 (一九六三)	6 12 10 9 1 30 29 15 30 27	代議員会 於・中央公民館 子供大会 於・市民会館 結婚五十年世帯記念品贈呈式 於・中央公民館 老人慰安会開催(市内五地区にて11月6日迄) 老人クラブ代表者会議 於・中央公民館 市内要保護世帯調査(12月15日迄)	10 7 4 1 1	柏市手足の不自由な子供を育てる会結成 老人福祉法制定 老人クラブ連絡協議会発足	
昭和39年度 (一九六四)	4 3 9 7 4 18 20 15 7 6	老人クラブ連合会開催 於・中央公民館 昭和三十九年度定例総会 結婚五十年記念品贈呈式 於・中央公民館 敬老会開催(市内四地区にて11月1日迄) 世帯更生資金滞納世帯相談会 於・中央公民館	4 2 11 10 7 4 6 4 10 1 27	県東葛飾支庁松戸に開設 母子及び寡婦福祉法制定 オリンピック東京大会開催 市の人口十万人に達す 市制施行十周年記念式典	
昭和40年度 (一九六五)	4 10 9 7 4 1	会員五、四〇〇人・会費一人50円に改正 総会 結婚五十周年記念式開催 敬老会開催	8 1 8 10 21 18	母子保健法制定 東葛地区更生保護婦人会発会式 母子福祉推進員決まる	
昭和41年度 (一九六六)	7 10 9 8 7 31	総会 船橋市社会福祉協議会法人化 結婚五十周年記念祝賀会開催 敬老会開催	5 11 9 5 10 1 1	柏保健所開設 初の「敬老の日」 肢体不自由児訓練施設「柏市簡易マザーズホーム」開所式	



<p>昭和42年度 (二九六七)</p> <p>9 8 6 3 9 20</p>	<p>老人福祉のための浪曲大会 於・市民会館 総会 結婚相談所開設 場所・中央公民館 結婚五十周年記念祝賀会開催 於・中央公民館 敬老会開催(市内四地区にて10月23日迄) 習志野市社会福祉協議会法人化 市川市社会福祉協議会法人化 松戸市社会福祉協議会法人化 市原市社会福祉協議会法人化</p>	<p>昭和43年度 (二九六八)</p> <p>9 8 15 15 7</p>	<p>昭和44年度 (二九六九)</p> <p>9 6 15 11 17</p>	<p>昭和45年度 (二九七〇)</p> <p>9 4 15 12 1</p>
<p>3 24 1</p> <p>千葉市社会福祉協議会法人化 我孫子市社会福祉協議会法人化</p>	<p>八千代市社会福祉協議会法人化 総会 結婚五十周年記念祝賀会開催(対象者五十組)於・社会福祉センター 鎌ヶ谷市社会福祉協議会法人化 敬老会開催(市内五地区にて11月2日迄) 対象者二、七三三人</p>	<p>総会 結婚五十周年記念祝賀会開催 於・豊住センター 敬老会開催(市内四地区にて10月20日迄)</p>	<p>東葛地区社会福祉協議会連絡会発足 於・東葛飾支庁 総会 結婚五十周年記念祝賀会開催(対象者五十二組) 於・公民館 敬老会開催(市内六地区にて11月1日迄) 対象者二、九五九人</p>	
<p>1 22</p>	<p>言語障害児をもつ親の会結成</p>	<p>12 10 7 1 1 1</p>	<p>7 4 1 1 1</p>	<p>1 10 8 5 1 25 26 21</p>
<p>柏市身体障害児童福祉手当支給条例公布 「手をつなぐ親の会」、柏市福祉センター開所式(布施) 目の不自由な人のための「声の広報」はじまる</p>	<p>県人口三〇〇万人を突破 福祉事務所内に「家庭相談室」を設置 柏市民生委員協議会発足</p>	<p>交通遺児手当の受付はじまる 柏市社会福祉センターの設置及び管理等に関する条例公布 柏市交通遺児手当基金に関する条例公布 柏市社会福祉センター開所 柏市婦人児童センターの設置及び管理等に関する条例公布</p>	<p>心身障害者対策基本法制定 市の人口一五万人に到達 精神薄弱者を対象とする青年学級「たけのこ会」発足 身障者家庭奉仕員制度発足</p>	

昭和46年度 (一九七二)	9 7 7 19	総会 柏市社会福祉協議会法人設立発起人会 於・市役所会議室 結婚五十周年記念祝賀会開催(対象者七十組) 於・社会福祉センター 敬老会開催(市内七地区にて10月31日迄) 対象者三、二六三人 東葛飾地区心配ごと相談所協議会 於・開発公社 柏市社会福祉協議会 社会福祉法人として認可される	3 11 5 31 25 1	ボランティアグループ「しのたけサークル」誕生 県柏児童相談所開所 柏市老人いこいの家設置及び管理に関する条例公布 柏市精神薄弱児通園施設設置及び管理に関する条例
昭和47年度 (一九七二)	9 6 15 8	地域福祉相談員連絡会議 於・中央公民館 結婚五十周年記念祝賀会開催(対象者六十五組) 於・社会福祉センター 敬老会開催(市内六地区にて11月3日迄) 対象者三、五八七人	3 12 10 9 5 4 28 28 12 15 3	精神薄弱児通園施設「十余二学園」開園 沖縄、二十七年ぶりに本土復帰(沖縄県発足) 有料老人ホーム「ボンノールガーデン」開設 柏初の民間老人ホーム「やわた苑」落成式 柏市老人医療費の支給に関する条例公布 柏市立肢体不自由児通園施設設置及び管理に関する条例公布 柏市重度心身障害者福祉手当支給条例公布 柏市老人医療費の支給に関する条例施行規則公布
昭和48年度 (一九七三)	9 6 15 29	パンフレット「柏市福のあんない」発行 結婚五十周年記念祝賀会開催(対象者五十六組) 於・社会福祉センター 敬老会開催(市内六地区にて10月4日迄) 対象者三、八四三人 会費徴収のための説明会(市内六地区にて9月27日迄) 野田市社会福祉協議会法人化	6 6 4 15 27	肢体不自由児通園施設「柏育成園」開園式 老人福祉農園を布施に設置、老人クラブ等に開放 県政百年記念式典を県文化会館に挙行 重度障害者とねたきり老人の医療費を無料とする 柏市重度心身障害者医療費の支給に関する条例公布 老人福祉バス「柏寿号」購入、翌月から運転開始
昭和49年度 (一九七四)	9 7 15 1	第二代会長に渡部豊夫氏就任 結婚五十周年記念祝賀会開催(対象者六十二組)	4 1	柏市社会福祉事業基金条例公布 柏市立精神薄弱者通所授産施設設置及び管理に関する

		昭和50年度 (一九七五)									
2	12	10	9	8	7	4	3	2	12	10	
21	7	7	29	12	10	2	29	15	29	8	1
<p>於・柏寿荘 敬老会開催(対象者四、四三六八) 於・市民文化会館 ふくし広報「社福かしわ」創刊号発行 (五五、〇〇〇枚・全世帯配布) 第一回柏市歳末助けあいチャリテイション開催 於・市民文化会館 第一回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館 市民大バザール大会実行委員会発足 於・中央公民館 第一回市民大バザール大会開催 於・柏中学校</p>		<p>柏市社会福祉協議会事業運営基金を設置 住民福祉活動の組織化(町会長、自治会長を柏市社会福祉協議会の支部長として、住民福祉活動の向上を図る) 第一回母子家庭レクリエーション大会開催(一二三名参加) 於・千葉県こどもの国 結婚五十年記念祝賀会(対象者六十五組) 於・柏寿荘 第一回ボランティアスクール開設(三日間開催) 八十六名修了 於・ファミリー柏3階市民サロン(現消費生活センター講座室) 第一回地区会議開催(市内七地区にて11月8日迄) 第一回地区長会議開催 於・市役所会議室 住民福祉連絡協議会の設置 第一回支部長会議開催 於・中央公民館 第二回柏市歳末助けあいチャリテイション開催 於・市民文化会館 第二回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館 第二回支部長会議開催 於・中央公民館</p>		<p>3 12 8 4 25 19 22 7 1</p>		<p>11 10 9 8 15 28 8 5</p>		<p>6 4</p>		<p>条例公布 精神薄弱者授産施設「青和園」開園式 寝たきり老人のための移動浴槽車「さわやか号」スタート 柏市老人福祉センターの設置及び管理に関する条例公布 老人福祉センター「柏寿荘」オープン 柏市ろう者福祉会結成総会 県人口四〇〇万人突破 市制二十周年記念式典を市民文化会館に挙行政</p>	

昭和51年度 (一九七六)		昭和52年度 (一九七七)									
3	28	5	24	6	19	7	24	9	15	11	15
第二回住民バザール大会開催 於・柏中学校											
5	24	5	27	8	1	9	5	12	5	12	5
第二回ボランティアスクール開催(三日間)二十八名 修了 於・消費生活センター講座室 第三回支部長会議開催 於・中央公民館 第一回青少年ボランティアスクール開設(二日間開 催)十九名修了 於・消費生活センター講座室 結婚五十年記念祝賀会開催(対象者八十八組) 於・柏寿荘 敬老会開催(市内七地区七ヶ所にて10月17日迄) 流山市社会福祉協議会法人化 第一回住民福祉シンポジウム開催 於・勤労青少年ホ ーム(現柏ヤングプラザ) 第三回柏市歳末助けあいチャリティーショー開催 於・市民文化会館 柏市社会福祉協議会案内と柏市民生福祉のあらしみ発 刊 奉仕活動センター(善意銀行)の開設 第三回住民バザール大会開催 於・柏中学校											
3	27	3	27	4	1	4	1	10	21	10	21
第四回支部長会議開催 於・中央公民館 第三回ボランティアスクール開催(三日間)四十一名 修了 於・消費生活センター講座室 千葉県地域ぐるみ福祉活動モデル地区に指定される 第二回青少年ボランティアスクール開催(二日間)二 十名修了 於・消費生活センター講座室 結婚五十年記念祝賀会開催(対象者九十五組) 於・柏寿荘 敬老会開催(市内七地区七ヶ所にて10月9日迄) 対象者五、四〇二人 第四回柏市歳末助けあいチャリティーショー開催											
4	4	4	1	5	1	6	1	8	1	8	1
社会福祉法人望陽会特別養護老人ホーム「望陽荘」開 設 県下初の「特別養護老人ホーム短期入所委託制度」を 実施 十余二学園に幼児言語指導教室を開設 厚生省、平均寿命世界一と発表 県、地域ぐるみ福祉活動に関する要綱を定め、柏をモ デル地区に指定 独居老人十五世帯に福祉電話を設置 点訳サークル「いなほ会」、市民便利帳「76かしわ暮 しの手帳」の点訳版を完成											

昭和53年度  
(一九七八)

1	17	<p>於・市民文化会館 第一回福祉講座開催「ボランティア活動の本質について」於・中央公民館</p>			
2	28	<p>第四回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館</p>			
3	26	<p>第二回住民福祉シンポジウム開催 於・柏ヤングプラザ</p>			
4	16	<p>第一回ボランティア講座開催「身障者(児)に対するリハビリテーションについて」於・中央公民館</p>			
5	25	<p>第一回地域ぐるみブロック別懇談会開催(市内九地区にて3月10日迄)</p>			
6	27	<p>第四回ボランティアスクール(成人)開催(三日間)三十一名修了 於・消費生活センター講座室</p>			<p>盲人ガイドヘルパー制度を導入、ヘルパー三千人を募集 柏寿荘老人福祉相談スタート</p>
7	25	<p>老人のための明るいまち推進事業「シルバーシティプラン」都市に指定される</p>	5	1	<p>老人のための明るいまち推進事業「シルバーシティプラン」都市に指定され、推進協議会結成式</p>
8	25	<p>指定にともない、事業として次の事業を実施することに決まる</p>	6	2	<p>ガイドヘルパー第一号発行</p>
9	27	<p>・老人給食サービス・国際理解教室・愛の文通・敬老の集い・シルバーリーダー育成・啓蒙運動・老人意識調査</p>	7	7	<p>柏市老人のための明るいまち推進協議会「明るいまち かしわニュース」創刊号発行</p>
10	31	<p>第五回支部長会議開催 於・中央公民館</p>	9	1	<p>老人福祉バス「はくよう号」スタート</p>
11	12	<p>シルバーリーダーを募集(シルバーシティプラン事業)</p>	10	30	<p>身障者や寝たきり老人の足に特殊車「シルバー号」を 配備</p>
12	24	<p>第一回国際理解教室開催(トランス市交換学生と老人との交流)シルバーシティプラン事業</p>	12		<p>市、身体障害者用自動車運転転免許取得専用車を購入</p>
13	11	<p>第三回青少年ボランティアスクール開催 十一名修了</p>	2		<p>第一回柏市高齢者ゲートボール競技大会開催</p>
14	11	<p>於・消費生活センター講座室</p>			<p>市福祉部「社会福祉の概要」を発刊</p>
15	15	<p>身体障害者自動車運転転免許取得制度始める(西柏自動車教習所)</p>			<p>朗読奉仕員養成事業開始</p>
16	15	<p>結婚五十年記念祝賀会開催(対象者九十五組)於・柏</p>			

15	9	10	11	11	11	12	1	2	3	25	22	14						
29	4	3	9	3	9	10	21	16	7	7	27	16						
平安閣	敬老会開催（市内十地区十ヶ所にて10月15日迄）対象者ハ、四六九人	交通遺児家庭への激励事業として激励会（激励金配分）を開催 於・市役所会議室	独居老人に対する給食サービス開始 原則として週二食（シルバースィープラン事業）	敬老の集い開催（現ふれあいの集い）市内十地区二十一ヶ所にて54年4月22日迄 参加者七、四九〇人	千葉県社会福祉大会において優良社協として柏市社協が、千葉県社協会長表彰 受賞	第一回柏市中心身障害者（児）スポーツ大会開催 於・市民体育館	第一回シルバースィープランティースクール開設 二十五名修了 於・中央公民館	愛の文通はじめる（学生と市内独居老人との文通）	第五回柏市歳末助けあいチャリティーショー開催 於・市民文化会館	第一回ボランティアの集い開催（一団体・3サークル八十名参加）於・柏そごう大会議室（三井銀行5階）	第五回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館	第三回住民福祉シンポジウム開催 於・市民文化会館	第六回支部長会議開催 於・中央公民館	第一回シルバースィープラン活動合同発表会 於・豊四季台近隣センター	第五回ボランティアスクール（成人）開催（二日間）十七名修了 於・消費生活センター講座室	愛の文通交流会開催 於・成田山	第五回柏市住民大バザール大会開催 於・柏中学校	福祉掲示板を市内に設置（シルバースィープラン事業）

昭和54年度 (二九七九)													3										
29	9	12	9	11	11	29	22	10	14	21	15	9	12	26	7	21	6	17	31	21	5	18	
老人意識調査まとまる(シルバーシティープラン事業)																							
第六回ボランティアスクール(成人)開催 十九名修了 於・消費生活センター講座室																							
第七回支部長会議開催 於・中央公民館																							
第一回福祉関係者によるブロック別懇談会開催(市内十地区にて6月28日迄)																							
第二回柏市中心障害者(児)スポーツ大会開催 於・市民体育館																							
国際児童年記念写真展開催(市内十地区にて9月10日迄)																							
第四回青少年ボランティアスクール開催 十四名修了 於・消費生活センター講座室																							
結婚五十年記念祝賀会開催(対象者一〇三組) 於・柏平安閣																							
敬老会開催(市内十地区十ヶ所にて10月21日迄) 対象者六、八八二人																							
第一回ボランティア教養講座開催「よりよいボランティア活動をめざして」 於・中央公民館																							
敬老の集い開催(市内十地区二十二会場にて55年3月31日迄) 参加者五、二〇一人																							
国際児童年記念シンポジウム開催 テーマ「心豊かな児童を育成するためには」 於・中央公民館																							
第二回シルバーボランティアスクール開催 十一名修了 於・消費生活センター講座室																							
国際児童年記念地域懇談会開催 テーマ「明日の子どもたちを考える」(市内十地区にて3月21日迄)																							
第六回柏市歳末助けあいチャリティショー開催 於・市民文化会館																							
第八回支部長会議開催 於・柏そごう																							
第六回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館																							
																		11	11	9	6	5	4
																		28	10	29	20		
国際児童年記念事業開催																							
第一回柏市シルバー運動会開催 於・総合運動場																							
老人意識調査結果まとまる																							
柏市教育福祉会館建設着工																							
柏市教育福祉会館建設地鎮祭																							
市制二十五周年記念式典 於・市民文化会館																							

昭和56年度		昭和55年度 (一九八〇)															
4	3	2	1	12	11	10		9	8	7	6	5		3			
1	22	24	9	7	14	28	15	6	4	24	23	15	16	10	26	23	5
柏市教育福祉会館オープン(オープンにともない社福		<p>第九回支部長会議開催 於・中央公民館            第八回ボランティアスクール(成人)開催(二日間)            三十二名修了 於・消費生活センター講座室            第三回柏市中心身障害者(児)スポーツ大会開催 於・市民体育館            第五回青少年ボランティアスクール開催 十二名修了            於・消費生活センター講座室            ふれあいの集い開催(市内十地区二十一ヶ所にて4月19日迄)            第三回シルバーボランティアスクール開催 十三名修了            於・消費生活センター講座室            結婚五十年記念祝賀会開催(対象者一〇九組)            於・柏平安閣            敬老会開催(市内十地区十ヶ所にて10月26日迄)対象者七、二六七人            第七回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館            全国社会福祉大会において優良社協として柏市社協が全国社会福祉協議会長表彰 受賞            第七回柏市歳末助けあいチャリティーショー開催 於・市民文化会館            第十回支部長会議開催 於・柏そごう            第九回ボランティアスクール(成人)開催 二十五名修了 於・消費生活センター講座室            第七回柏市住民大バザール大会開催 於・柏中学校</p>										第七回ボランティアスクール(成人)開催 二十五名修了 於・消費生活センター講座室 第六回柏市住民大バザール大会開催 於・柏中学校 第四回住民福祉シンポジウム開催 於・市民文化会館					
4									10	9	8	7	5	4	4		
1										29	1	3	21	20			
柏市教育福祉会館(地域福祉センター・中央老人福祉		<p>光ヶ丘老人憩の家開設            朗読奉仕サークル発足            柏市高齢者事業団の作業所(根戸)完成            障害者のための「福祉タクシー」制度発足            市役所職員手話講習実施            柏市高齢者事業団設立            柏市高齢者事業団法人化            県東葛地区身障害者スポーツ大会開催(柏市会場)</p>															



事務局移転

3	1	12	11	10	9	8	7	6	5		
22	28 20	20 6	20	31 28	15	30	25 20	21	28 16 1	1	1
<p>普通会員会費 一世帯80円に改正          交通遺児等援護基金事業始まる          第十一回支部長会議開催 於・教育福祉会館          第十一回ボランティアスクール(成人)開催(二日間)          十五名修了 於・教育福祉会館          第四回柏市中心身障害者(児)スポーツ大会開催 於・市民体育館          障害者福祉推進都市に指定される          第六回青少年ボランティアスクール開催(三日間) 二十一名修了 於・教育福祉会館          ふれあいの集い開催(市内十三地区二十一ヶ所にて3月31日迄)          結婚五十年記念祝賀会開催(対象者一一一組) 於・柏平安閣          敬老会開催(市内十三地区十二ヶ所にて10月18日迄) 対象者七、七一人          第八回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館          国際障害者年記念障害者(児)作品展「ともしび広場」開催(11月3日迄) 於・教育福祉会館          第十一回ボランティアスクール(成人)開催(三日間) 十六名修了 於・教育福祉会館          第八回柏市歳末助けあいチャリティーショー開催 於・市民文化会館          国際障害者年記念クリスマス交流会開催 於・教育福祉会館          第十二回支部長会議開催 於・教育福祉会館          国際障害者年記念福祉講演会開催「これからの福祉社会について」講師 坂巻 熙氏 一五〇名参加 於・教育福祉会館          国際障害者年記念みんな仲間のつどい開催 三〇〇名</p>											

10 7 7 5 4  
7 20 15 12 1

センター・身体障害者福祉センター)落成  
 県立柏養護学校開校  
 デイ・サービス事業実施  
 柏市立図書館、重度身体障害者への図書郵送貸出開始  
 柏シルバーク学園大学院設立開校式  
 自動車燃料費助成事業実施  
 「障害者福祉都市推進事業」実施の指定(国)  
 柏初の車イス用公衆電話ボックス二台を教育福祉会館前に設置(県内では市川市に次いで二番目)

昭和57年度 (一九八二)														
昭57	昭56	昭55	昭54	昭53	昭52	昭51	昭50	昭49	昭48	昭47	昭46	昭45	昭44	
													23	26
1	4	5	6	7	7	7	7	9	11	12	13	15	16	18
1	22	30	20	3	3	3	20	28	28	1	2	7	7	7
1	1	22	20	3	3	3	20	28	28	1	2	7	7	7
1	4	5	6	7	7	7	9	11	12	13	15	16	18	23
1	22	30	20	3	3	3	20	28	28	1	2	7	7	7
1	1	22	20	3	3	3	20	28	28	1	2	7	7	7
1	4	5	6	7	7	7	9	11	12	13	15	16	18	23
1	22	30	20	3	3	3	20	28	28	1	2	7	7	7
1	1	22	20	3	3	3	20	28	28	1	2	7	7	7
1	4	5	6	7	7	7	9	11	12	13	15	16	18	23
1	22	30	20	3	3	3	20	28	28	1	2	7	7	7
1	1	22	20	3	3	3	20	28	28	1	2	7	7	7

昭和58年度 (一九八三)													
11	10	9	8	7	6	5	4	3	1	12	11	10	15
19	26	1	15	6	20	26	12	22	21	5	18	22	26
<p>敬老会開催(市内十四地区十二ヶ所にて10月24日迄) 対象者八、三三九人</p> <p>住民福祉講演会開催「地域福祉を考える」講師 一番 ヶ瀬康子氏 一二〇名参加 於・教育福祉会館</p> <p>第一回かしわっ葉福祉まつり開催(二日間) 於・教育福祉会館</p> <p>第九回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館</p> <p>第九回柏市歳末助けあいチャリティーショー開催 於・市民文化会館</p> <p>第十四回支部長会議開催 於・教育福祉会館</p> <p>福祉映画会開催「典子は今」を上映 於・教育福祉会館</p> <p>第一回柏ことぶきゲートボール大会開催(28チーム二三〇人参加) 於・県立東葛飾高等学校々庭</p> <p>第十五回支部長会議開催 於・教育福祉会館</p> <p>ふれあいの集い開催(市内十四地区二十二ヶ所にて3月25日迄)</p> <p>第六回柏市中心身障害者(児)スポーツ大会開催 於・市民体育館</p> <p>第八回青少年ボランティアスクール開催(六日間) 十六名修了 於・教育福祉会館</p> <p>青少年ボランティアワークキャンプ開催 於・もとの荘</p> <p>結婚五十年記念祝賀会開催(対象者一四八組) 於・柏平安閣</p> <p>敬老会開催(市内十四地区十二ヶ所にて10月2日迄) 対象者八、九七六人</p> <p>市町村社協法制化実現</p> <p>第十回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館</p> <p>第二回かしわっ葉福祉まつり開催(二日間) 於・教育</p>													
							4	7	12	9			
							5	15	12				
							4	5	<p>特別養護老人ホーム「八幡苑」開園</p> <p>障害者喫茶コーナー「柏っ葉」オープン</p> <p>車イス用階段昇降機(二基)購入</p> <p>県人口五〇〇万人突破</p>				

昭和60年度 (一九八五)	昭和59年度 (一九八四)										12 4				
	4 19	1	12 2	10 26	17	30	15	9 5	8 24	13		6 7	5 19	4 1	
ボランティア連協十周年記念全体会・記念講演「施設とボランティアのかかわり」講師 ひかり隣保館老人ホーム主任指導員 渡部 昭氏 於・教育福祉会館	第十回柏市歳末助けあいチャリティショー開催 於・市民文化会館 福祉会館 法制化に伴い、五十九年度を初年度とする三ヶ年間の「社会福祉協議会強化計画」を策定、実施に入る 第十六回支部長会議開催 於・教育福祉会館 第十三回ボランティアスクール(成人)開催(六日間) 四十四名修了 於・教育福祉会館 第七回柏市中心身障害者(児)スポーツ大会開催 於・市民体育館 第九回青少年ボランティアスクール開催(二日間)十一名修了 於・教育福祉会館 結婚五十年記念祝賀会開催(対象者一二三組)於・柏平安閣 敬老会開催(市内十五地区十三ヶ所にて9月20日迄) 対象者一〇、〇一〇人 ふれあいの集い開催(市内十五地区二十一ヶ所にて3月31日迄) 独居老人を囲む会事業開始(市内十五地区十四ヶ所にて3月20日迄) 第十一回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館 第十一回柏市歳末助けあいチャリティショー開催 「森山良子コンサート」於・市民文化会館 第三回かしわつ葉福祉まつり開催(二日間) 於・教育福祉会館 「柏市社会福祉協議会強化計画書」を発行										11 15	10 27	10 3	6 16	5 16
精神薄弱者通所授産施設「朋生園」建設	手話通訳者派遣事業実施 市制三十周年記念三世代運動会開催 市制三十周年記念ゲートボール大会開催 老人意識調査の実施 柏寿荘開館十周年記念柏寿荘まつり開催(二日間) 市制三十周年記念式典 於・市民文化会館														

3	2	12 11	10	9	8	6	5
20	7	1 28 25	10	4	9	2 25	14
刊	ボランテア連協十周年記念誌「手に手をとって」発	ボランテア連協十周年記念講演会開催「ボランテア昨日・今日・明日」講師 日本ルーテル神学大学教授 前田ケイ氏 於・教育福祉会館 第四回かしわ葉福祉まつり開催（二日間）於・教育福祉会館	ふれあいの集い開催（市内十五地区二十二ヶ所にて3月29日迄） 第十二回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館 沼南町社会福祉協議会法人化 第十二回歳末助けあいチャリティーショー開催「芹 洋子コンサート」於・市民文化会館	柏平安閣 結婚五十周年記念祝賀会開催（対象者一三六組）於・敬老会開催（市内十五地区十三ヶ所にて10月6日迄） 対象者一〇、七〇三人	名修了 於・教育福祉会館 第十回青少年ボランテアスクール開催（六日間）五	市民体育館 第八回柏市中心身障害者（児）スポーツ大会開催 於・第十七回支部長会議開催 於・教育福祉会館	ボランテア連協十周年記念実行委員会発足（実行委員十五名） 第十四回ボランテアスクール（成人）開催（五日間）二十九名修了 於・教育福祉会館

昭和61年度 (一九八六)																													
5	24	6	1	7	16	8	5	9	1	10	12	11	12	7	29	12	7												
館		講師 初石病院医師 唐崎三千代氏 於・教育福祉会館		第十八回支部長会議開催 於・教育福祉会館		第九回柏市中心身障害者(児)スポーツ大会開催 於・市民体育館		第十五回ボランティアスクール(成人)開催(六日間) 二十二名修了 於・教育福祉会館		第十一回青少年ボランティアスクール開催(七日間) 九名修了 於・教育福祉会館		「地域ぐるみ福祉ネットワーク事業」スタート		結婚五十周年記念祝賀会開催(対象者一五八組) 於・ホテルオークス柏ロイヤルホール		敬老会開催(市内十五地区十三ヶ所にて9月28日迄) 対象者一一、四〇八人		ふれあいの集い開催(市内十五地区にて3月迄)		独居老人を囲む会事業開催(市内十五地区十四ヶ所にて3月迄)		創立三十周年記念第十三回柏市住民福祉大会開催 於・市民文化会館		第五回かしわ葉福祉まつり開催(二日間) 於・教育福祉会館		創立三十周年記念第十三回柏市歳末助けあいチャリティショー開催		「サーカスコンサート」於・市民文化会館	
8	5	27	1																										
		精神薄弱者通所授産施設「朋生園」開園 福祉バス「おおぞら号」購入																											

社会福祉協議会の思い出

# 社会福祉協議会の思い出

## 社会福祉協議会について

昭和四十七年～昭和五十年

常務理事兼事務局長

伊藤紫朗氏

私が社会福祉協議会に勤務し始めた頃は、事務局も福祉事務所の中であり、事務員も一名しかいなかった。

昭和四十七年、常務理事兼事務局長に任命され、柏市にふさわしい福祉の建設を夢みた。その頃、社福日本一は八千代市といわれ、視察を実施した。そして、事務室の独立、職員の充実、町会長・自治会長の社福支部長への任命、会報の発行、歳末助け合いチャリティーショー、住民大バザールの開催等々となって柏市社会福祉協議会の建設は着々と進んでいった。

現在は、関係各方面のご協力により、市行政と住民サイドの福祉活動が一体となっていて誠によろこばしい。

## 敬老会について

伊藤紫朗氏

今は定着している敬老会も松崎良太郎会長が公民館活動の一環として、社福会費と寄付金（ロータリークラブ・ライオンズクラブの外、武者静子氏も参画）で七〇歳以上の高齢者一人当

り一五〇円の予算で菓子袋一つで実施された。

折角お招きして菓子袋一つとはお粗末すぎると、民生委員総務と図り、昭和四十五年度から旧柏地区全町会長自治会長に文書でお願いし、町会自治会内敬老人員一人当り一五〇円の寄付をいただいたおかげで、敬老会には九谷焼湯呑茶碗の記念品と菓子袋を差し上げることができた。

昭和四十七年度には市予算に敬老会費が計上され、真の敬老会の姿となった

## 住民福祉の理解のためのキャンペーン

昭和四十九年～昭和五十七年

前社会福祉協議会会長

渡部豊夫氏

八十年代の福祉活動は、言うまでもなく住民主体で進められているが、いまから十余年前はそうではなかった。昭和四十年代の後半までの福祉活動は行政中心、物や金で解決する場面が多かった。それが、いわゆる昭和四十八年のオイルショックから、福祉に対する考え方が大きく変わった。すなわち、行政主体から住民主体へと急転回をみるようになった。

当時、柏市社会福祉協議会の責任ある立場にあり、どのよう



に住民主体の地域福祉活動を展開していくかが悩みであった。いろいろ考えさせられた揚句、三つのことを考えた。

一つは、地域住民主体の組織づくりをすること、二つには、福祉に対する理解を拡大するため、各種のキャンペーン活動を展開すること、そして、三つ目のことは、事務局体制を強化することであった。

幸いなことに、関係者の理解と協力のもとに、組織づくりは支部長（町会長に委嘱）を中心に住民福祉連絡協議会をつくり、ボランティア・スクールをはじめ、各種のパンフレットを作成し、全市民に配布し一般市民の理解を求めた。事務局の整備強化をすすめ、拡充発展をみた。

あの時代を回顧すると、がむしゃらにやったことが、いまはなつかしい思い出の一つとなっている。

## 季節保育所

昭和三十三年～昭和三十四年

保母・専従事務職員

秋山ムツ氏

もう当時から三十年も経ちますので、多くは思い出されませんが、季節保育所は、船戸・大室・鴻の巣・篠籠田・増尾・藤心で実施したと思います。開所場所はお寺が多かったのですが、私の勤めました鴻の巣は島の中の一軒屋、子供達は元気でよく散歩したことが思い出されます。季節保育所は農繁期に開放されるので、どの家庭からも喜ばれました。夕方お迎えに見える

お母さんは、島から直行することが毎日とても忙しそうでした。

広い島も今は団地になったとか……一度ゆっくり行って見たいと思います。

## 季節保育所

昭和三十三年～昭和四十三年

季節保育所保母

白井和枝氏

昭和三十三年から約十年間、社会福祉協議会と町会合同で、農繁期中四月から十一月頃まで季節保育所を開設していました。といっても極く簡易なもので、お寺の本堂の一室を借りてやりました。当時は今日のような遊具に恵まれず、庭にブランコ、砂場、すべり台があるだけで、部屋には大きな積木がある位で、皆で折り紙と粘土いじりで遊びましたが子供達は遊びの天才で、それぞれ自分達で遊びを作り、毎日元気で楽しい日々をすごしました。思い出の一つとして市民運動会に出場したこと、毎日の「おやつ」の時間の子供達の顔、又、レコードの曲で一斉に行動することを身につけたことなど……今、子供達は皆それぞれ立派に成長し、その年頃の子供の父親母親になっており、私にとってあの十年間は思い出がなつかしい時代でした。

## 相談室の思い出

昭和三十七年八月、現在

心配ごと相談員

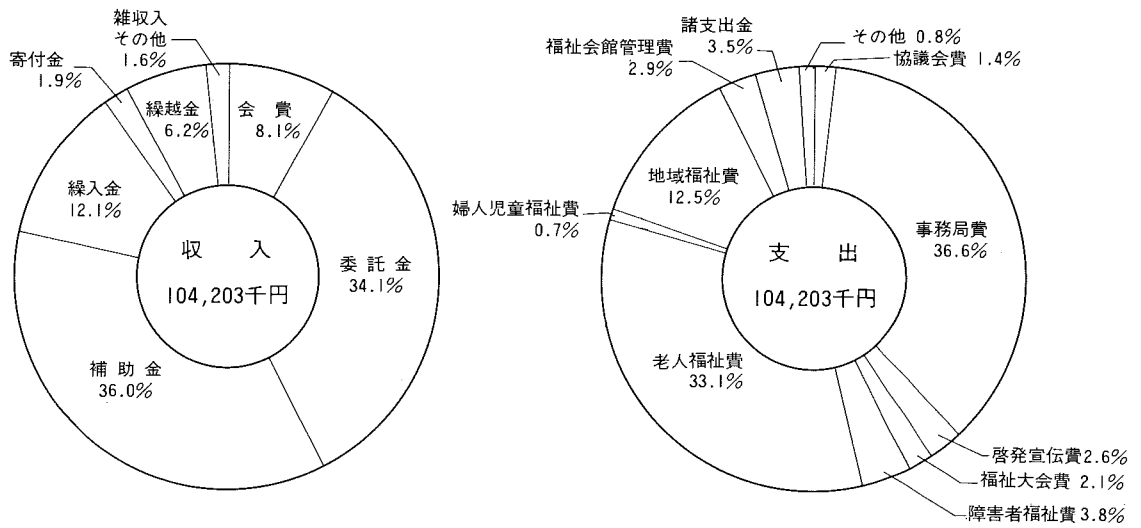
伊井みつ氏

心配ごと相談室は、はじめは柏公民館の二階北側の寒い小さな一室でした。相談員二人と来訪される人が二、三人が入るといっぱいでした。

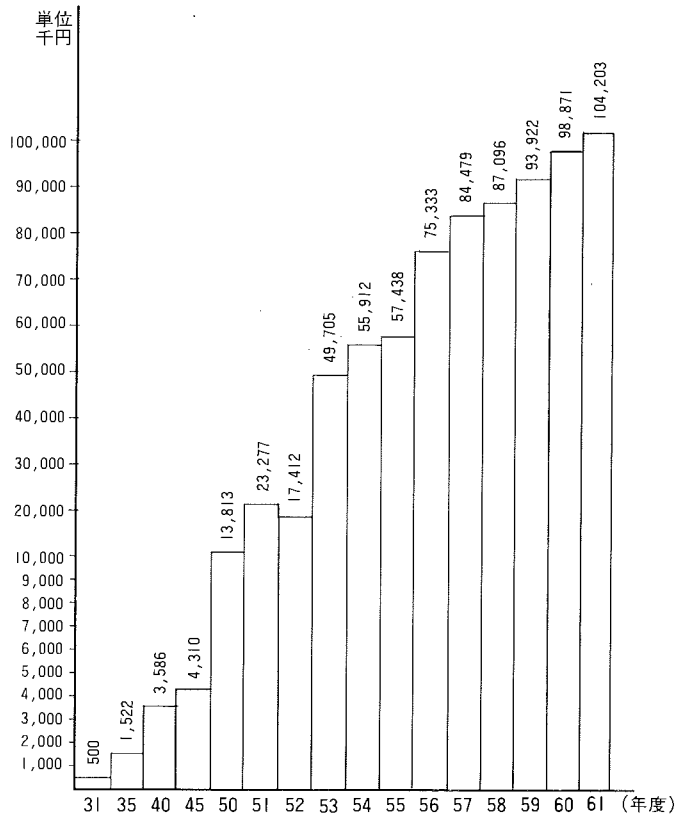
担当した当時は自分の番にあたる日はとても心配でした。その日同席して下さる男性の相談員さんに頼っているばかりでした。その頃、一人の五十歳ぐらいの婦人が相談に来られ、「私はある病院で手術をしたが、その後ますます体が悪くなり、今は廃人の様な生活を送っています」と訴える様に言っていて泣きませんでした。これまでの経過を聞いて少しでも役に立つことができればと、当の病院へ出かけ再度患者の話聞いてくれる様頼みました。病院も承知してくれて、本人との話し合いの結果手術をやり直し、現在はすっかり元気になって公民館での趣味の講座にも参加して楽しんでます。

相談員に委嘱されて間もない頃の事でしたので、今だにありありと思ひ出されます。

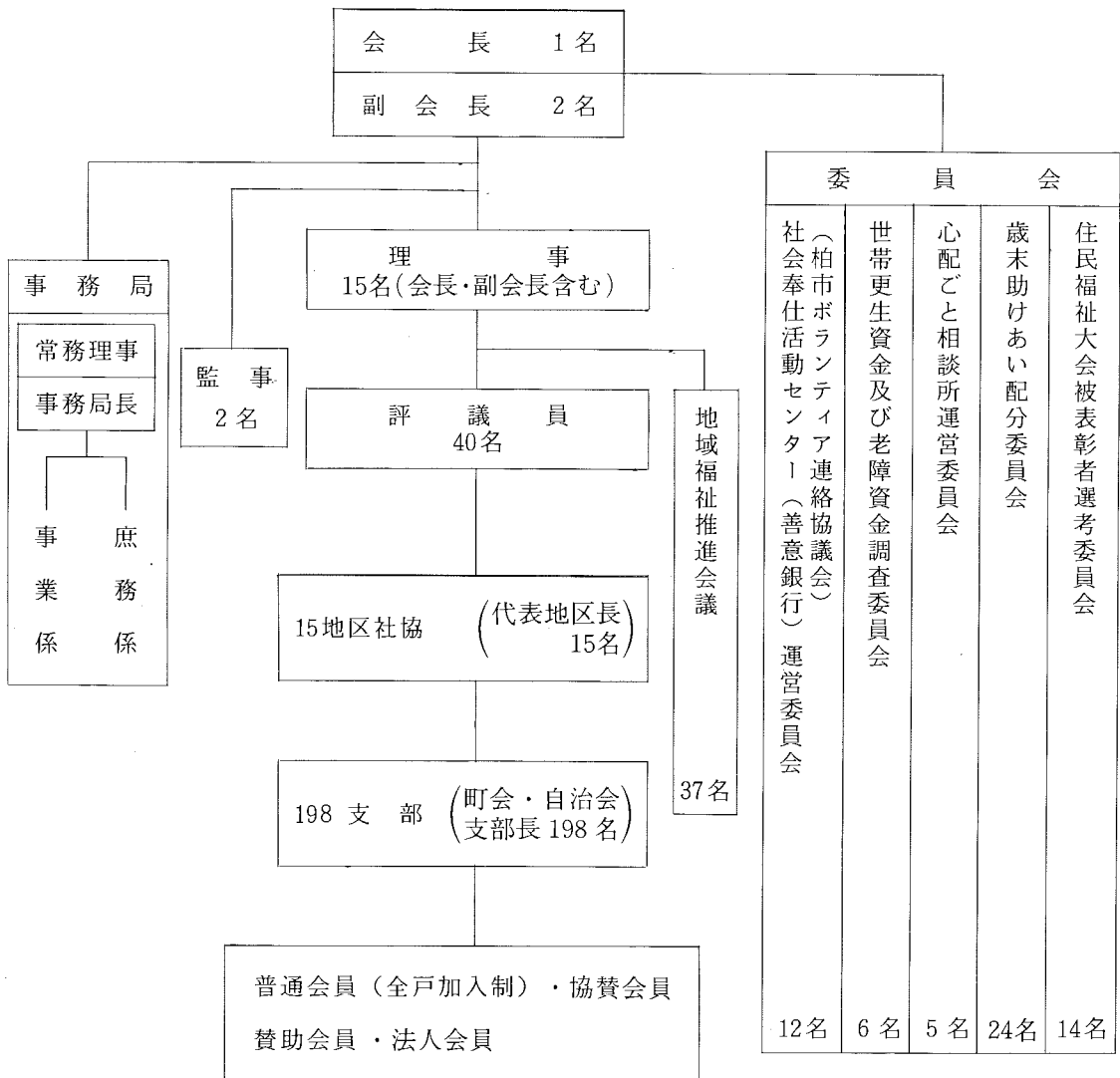
## 61年度予算のあらまし(一般会計)



## 一般会計予算の推移



# 社会福祉協議会の組織図



社会福祉協議会の全ての事業は上図のように15名で組織された執行機関である理事会と、40名で構成された諮問機関である評議員会を中心にして各専門委員会と連携を密に運営されています。

# 社会福祉協議会の事業

## 柏市住民福祉大会について

福祉関係諸団体が一堂に会し、地域福祉活動の一層の推進を図るとともにあわせて社会福祉の発展に功績のあった方々に対し、広くこれを表彰し感謝の意を表わす場として開催しております。

### 第1回

期 日 昭和50年2月22日

会 場 柏市民文化会館 小ホール

内 容 福祉功労者の表彰 研究発表

会長表彰状 個人三七

会長感謝状 個人 二 団体 五

### 第2回

期 日 昭和51年2月7日

会 場 柏市民文化会館 小ホール

内 容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人一九

会長感謝状 個人 八 団体 二一

### 第3回

期 日 昭和52年1月29日

会 場 柏市民文化会館 小ホール

内 容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人二七

会長感謝状 個人 一 団体 七

市長感謝状 個人 七 団体 一一

### 第4回

期 日 昭和53年1月28日

会 場 柏市民文化会館 小ホール

内 容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人一六 団体 二

会長感謝状 個人 七 団体 一四

市長感謝状 個人 三 団体 九

### 第5回

期 日 昭和54年1月30日

会 場 柏市民文化会館 小ホール

内 容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人二九

会長感謝状 個人一〇 団体 四〇

市長感謝状 個人 四 団体 八



第3回大会風景



ふれあいの輪を広めるために

参加者 三〇〇人  
第6回

期日 昭和55年1月29日  
会場 柏市民文化会館 大ホール  
内容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人三五 団体二  
会長感謝状 個人一六 団体三七  
市長感謝状 個人四 団体一〇  
参加者 五五七人

第7回

期日 昭和55年10月28日  
会場 柏市民文化会館 大ホール  
内容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人二四  
会長感謝状 個人一一 団体一六  
市長感謝状 個人七 団体一一  
参加者 八五七人

第8回

期日 昭和56年10月28日  
会場 柏市民文化会館 大ホール  
内容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人三三 団体七  
会長感謝状 個人七 団体一一  
市長感謝状 個人一〇 団体二〇

参加者 八四〇人  
第9回

期日 昭和57年11月18日  
会場 柏市民文化会館 大ホール  
内容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人九四 団体一  
会長感謝状 個人七 団体二〇  
市長感謝状 個人七 団体一八  
参加者 八八〇人

第10回

期日 昭和58年10月26日  
会場 柏市民文化会館 大ホール  
内容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人四一 団体三  
会長感謝状 個人四 団体一〇  
市長感謝状 個人五 団体一六  
参加者 七五〇人

第11回

期日 昭和59年10月26日  
会場 柏市民文化会館 大ホール  
内容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人三九 団体三  
会長感謝状 個人六 団体一四  
市長感謝状 個人一〇 団体一五

参加者 七七六人  
第12回

期日 昭和60年10月25日  
会場 柏市民文化会館  
内容 福祉功労者の表彰 事例発表

会長表彰状 個人四六  
会長感謝状 個人一一 団体一三  
市長感謝状 個人九 団体三八  
参加者 八七二人

### 柏市中心身障害者(児)スポーツ大会

市内の心身障害者(児)が一堂に集いスポーツを通じて健康の増進、機能の回復、残存能力の向上並びに相互の親睦とともに、広く社会に心身障害者(児)に対する知識と理解を深め福祉の向上を図ることを目的とし、関係団体の協力を仰ぎながら実行委員会を組織して「心身障害者(児)スポーツ大会」を実施してまいります。

第1回

期日 昭和53年11月12日  
会場 柏市民体育館  
参加人数 二九八人 障害者関係 二二三人  
その他 七五人

第2回

期 日 昭和54年6月17日

会 場 柏市民体育館

参加人数 五二七人 障害者関係 二九七人

その他 二三〇人

第3回

期 日 昭和55年6月15日

会 場 柏市民体育館



ボールを持ってまっしぐら

第4回

期 日 昭和56年6月21日

会 場 柏市民体育館

参加人数 四七九人 障害者関係 二五六人

その他 二二三人

参加人数 五三三人 障害者関係 三三三人

その他 二〇〇人

第5回



第5回大会風景



# 社会福祉協議会の事業

期 日 昭和57年6月20日  
 会 場 柏市立柏高等学校体育館  
 参加人数 五十一人 障害者関係 二八七人  
 その他 二二四人

第6回

期 日 昭和58年6月12日  
 会 場 柏市民体育館  
 参加人数 七二〇人 障害者関係 四八五人  
 その他 二三五人

第7回

期 日 昭和59年6月3日  
 会 場 柏市民体育館  
 参加人数 六一二人 障害者関係 四一五人  
 その他 一九七人

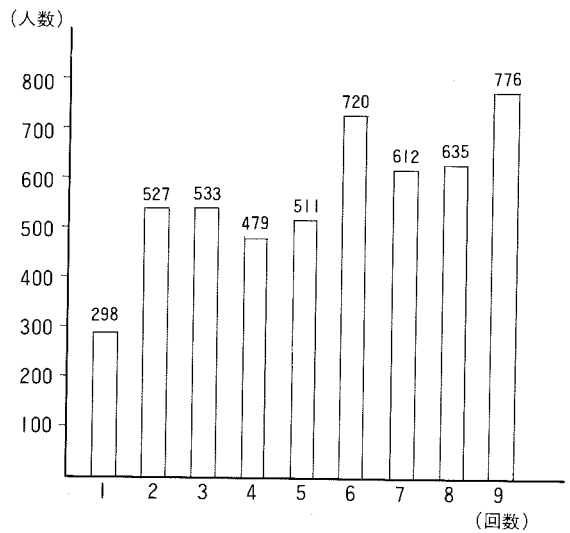
第8回

期 日 昭和60年6月2日  
 会 場 柏市民体育館  
 参加人数 六三五人 障害者関係 四四二人  
 その他 一九三人

第9回

期 日 昭和61年6月□日  
 会 場 柏市民体育館  
 参加人数 七七六人 障害者関係 五三三人  
 その他 二五三人

参加人員



かしわっ葉福祉まつり

障害者と地域住民が交流を図ることにより、広く社会に対して、障害者に対する知識と理解を深め、福祉の向上を図ることを目的として、関係団体による実行委員会を組織して開催しています。

第1回

期 日 昭和57年11月12日～14日  
 会 場 柏市教育福祉会館 全館  
 内 容 デュークエイセスコンサート、カラオケのど自慢大会、「なきながら笑う日」映画会、市民会議

第2回

期 日 昭和58年11月19日～20日

会 場 柏市教育福祉会館 全館

内 容 ボニージャックスコンサート、小森和子講演会、「典子は、今」映画会、車イス講習会、バザーボランティアパネル展、その他



運命はいかに？

第3回

期 日 昭和59年12月8日～9日

会 場 柏市教育福祉会館 全館

内 容 さとう宗幸コンサート、牟田悌三講演会、「スーパーマン」映画会、体験コーナー、バザー、対面朗読コーナー、その他

第4回

期 日 昭和60年12月7日～8日

会 場 柏市教育福祉会館 全館

内 容 ビリーバンバンコンサート、落合恵子講演会、「ジョーイ」映画会、ボランティアパネル展、写真展、バザー、その他



点字っておもしろいなー。

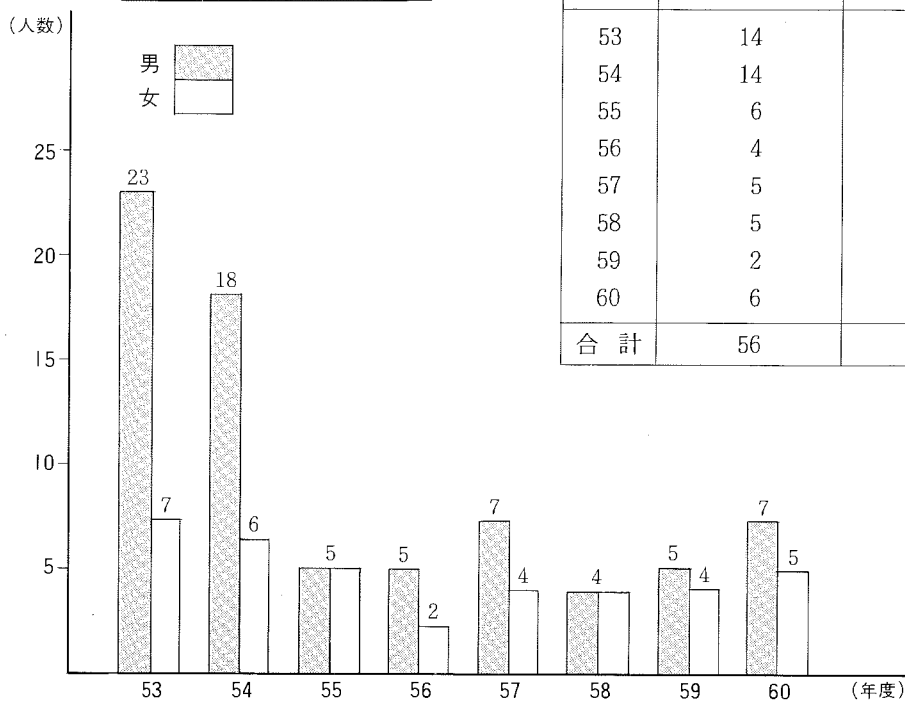
## 身体障害者運転免許取得事業

自立更生に努める身体障害者の日常生活の利便と生活向上をはかり、社会参加を促進するために、身体障害者用の改造自動車を利用して、教習所の専門指導による自動車運転技能の取得事業が行われております。



最新機能の教習車

### 男女別利用状況

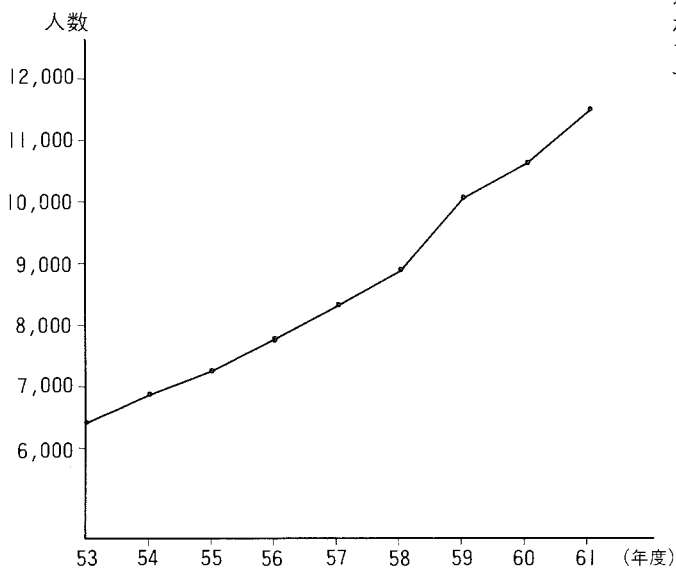


年度	市内利用者数 (人)	市外利用者数 (人)	合計
53	14	16	30
54	14	10	24
55	6	4	10
56	4	3	7
57	5	6	11
58	5	3	8
59	2	7	9
60	6	6	12
合計	56	55	111

## 敬老会

昭和二十六年から全国社会福祉協議会の提唱により、毎年九月十五日「としよりの日」が実施されてきましたが、老人福祉法の制定により「老人の日」と改められました。さらに昭和四十一年国民の祝日に関する法律の改正により「敬老の日」と改め、国民の祝日となりました。この日は、国民が老人福祉に理解と関心を深め、老人もみずからの生活の向上に努める趣旨の諸行事が行われます。

### 70歳以上の老人の推移



この行事を通じて老人福祉の進展を図ることが目的でありま  
す。

本市においては、昭和三十一年から七十歳以上の老人を対象  
に実施し以後毎年開催されています。



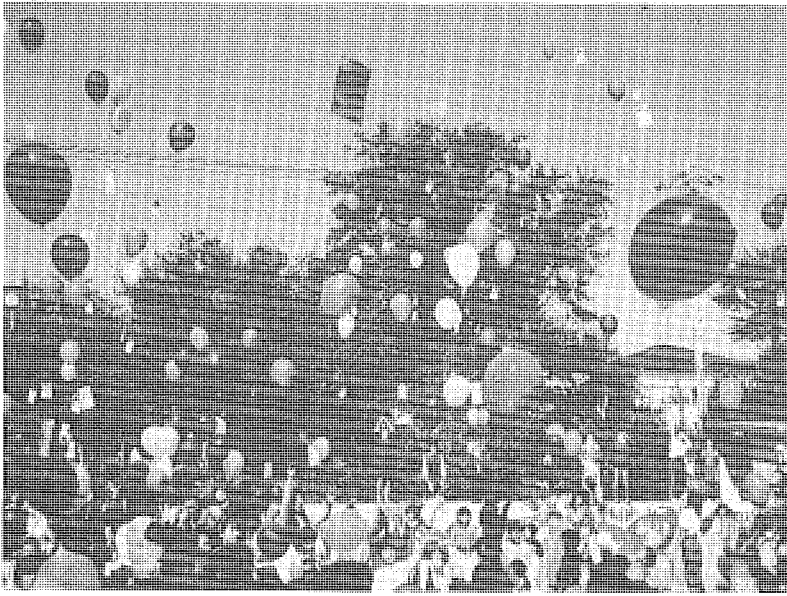
昭和37年度の風景



いつまでもお健やかに

## ふれあいの集い

お年寄りと地域住民の各年齢層との交流を深め、敬老の心を養うことをねらいとして昭和五十三年から始めた事業で当初は、「敬老の集い」という名称で、昭和五十六年から「ふれあいの集い」となり地区単位で開催しています。



どこまで届くかな？

(昭和56年度)

月	対象世帯数 (世帯)	給付本数 (本)
56. 7	214	2,887
8	294	3,602
9	299	3,857
10	298	3,899
11	303	3,868
12	300	3,908
57. 1	295	3,476
2	292	3,472
3	291	3,963
合計	2,586	32,932

65歳以上のひとり暮らしのお年寄りに、おはようサービス(乳酸菌飲料宅配)を行うことにより孤独感をなくし、日々の安否を確認するため、週6回実施しています。

## おはようサービス



よしガンバルゾー

## (昭和59年度)

月	対象世帯数 (世帯)	給付本数 (本)
59. 4	330	7,890
5	336	8,292
6	337	8,701
7	337	8,667
8	348	9,187
9	389	8,795
10	391	10,097
11	408	9,576
12	403	10,007
60. 1	393	8,633
2	397	9,091
3	408	10,059
合計	4,476	108,995

## (昭和58年度)

月	対象世帯数 (世帯)	給付本数 (本)
58. 4	313	7,648
5	316	7,559
6	333	8,533
7	335	8,526
8	328	8,789
9	335	7,834
10	329	8,196
11	332	7,952
12	336	9,020
59. 1	338	7,547
2	332	7,924
3	333	8,665
合計	3,960	98,193

## (昭和57年度)

月	対象世帯数 (世帯)	給付本数 (本)
57. 4	299	6,422
5	290	6,618
6	304	7,644
7	301	7,901
8	308	9,029
9	307	7,253
10	307	7,484
11	306	6,248
12	321	7,570
58. 1	311	7,035
2	307	6,898
3	311	7,921
合計	3,672	88,023

## (昭和60年度)



お元気ですか、

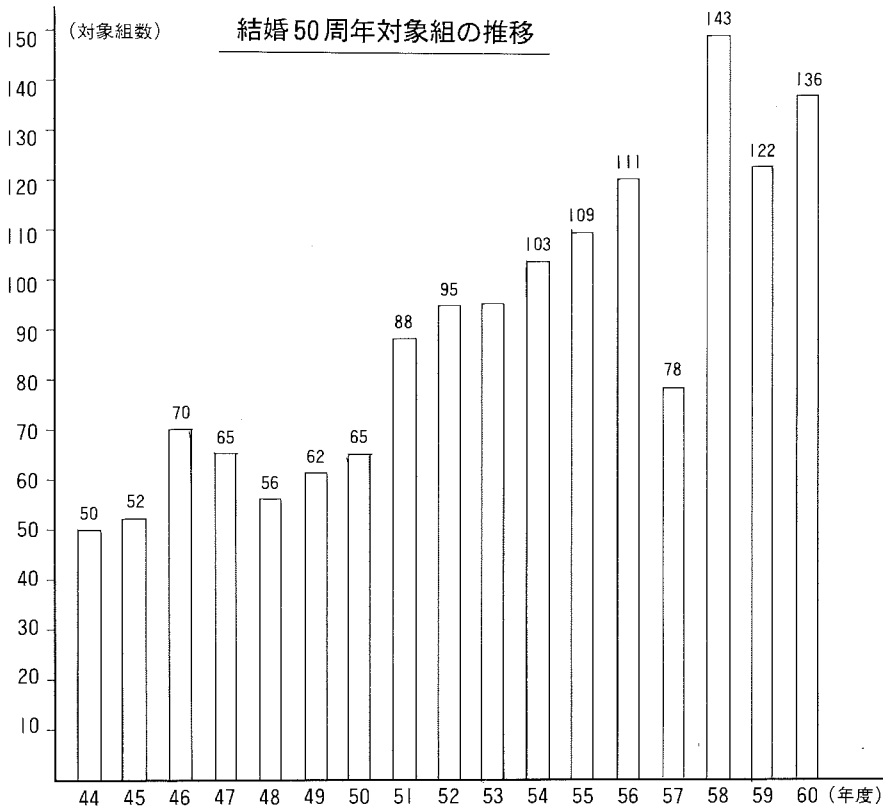
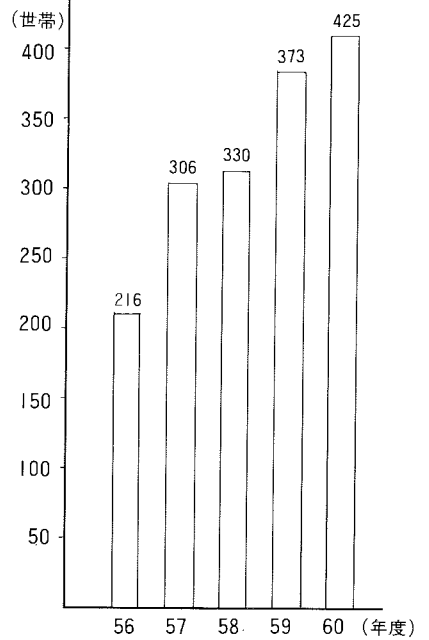
月	対象世帯数 (世帯)	給付本数 (本)
60. 4	411	10,231
5	431	10,390
6	432	10,717
7	467	11,931
8	466	12,439
9	470	10,751
10	464	12,068
11	448	10,931
12	452	11,231
61. 1	451	9,871
2	450	10,292
3	453	11,148
合計	5,095	132,000



昭和 53 年度風景

結婚五十周年祝賀会について

年間月平均給付世帯数



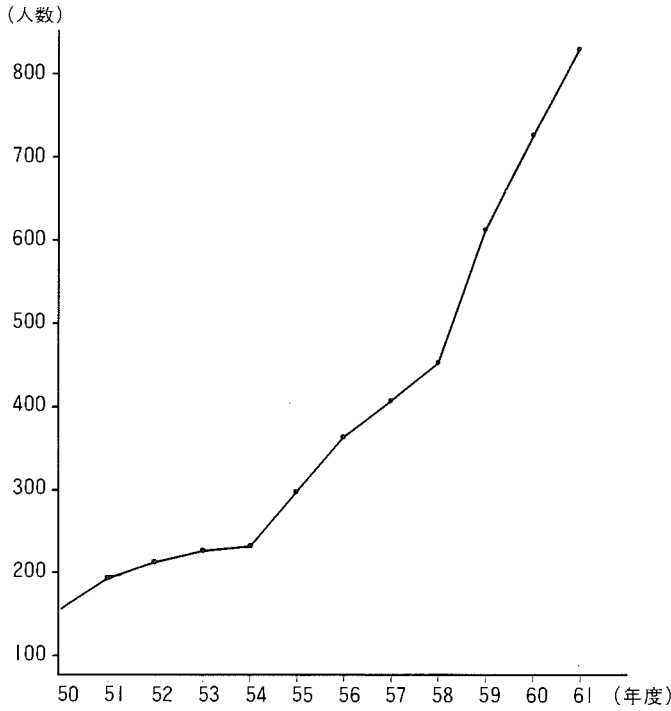
敬老の日にちなむ敬老行事の一つとして、結婚五十周年を迎えられた夫婦の長寿と、長い年月にわたって社会にご尽力くださいましたことに対し、感謝と敬愛の意を表すとともに、今後の生活がより明るくより楽しく心豊かなものでありますことを願って、祝賀会を開催しています。



## ひとりぐらし老人の集い

昭和五十九年度から実施した事業で、ひとり暮らし老人の孤独感の解消と、社会への積極的な参加を促進するための動機づけとして、民生委員、ボランティアが中心となり、手作り料理を味わってもらいながら生活意欲の向上を図ることを目的にしています。

## 65歳以上ひとりぐらし老人の推移



## シルバーサークル活動

昭和五十三年度「シルバーシティ」の指定を受け「老人のための明るいまち」推進事業の一つとして、同好のサークルをつくり老人の孤独感の解消と、豊かな老後の生活をはかることをねらいとしてシルバーサークル活動を行っています。

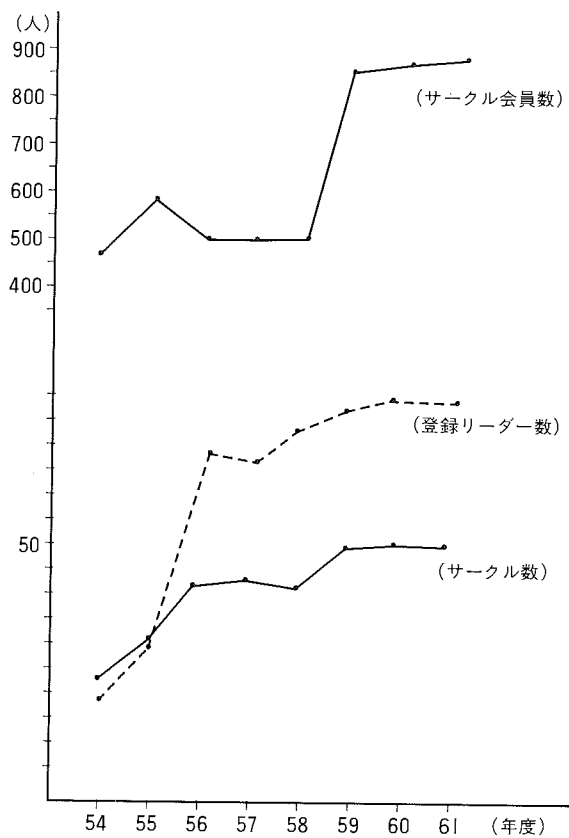
なお年一回日常の学習成果の合同発表会も行っています。

又リーダーの方々に幅広い識見を高めていただくため他県の福祉関係施設等の視察も行っています。



和やかな昼食会

## サークル活動状況



サークル発表会

## つるかめピクニックについて

毎年市内在住の六十歳以上のお年寄りを対象に、健康増進と「ふるさと柏」をよく知ることをねらいとして、「つるかめピクニック」の名称のもとに参加者を募り実施しています。



民謡練習風景

## つるかめピクニック実施状況

年 度	参加人員	行	先
58	50	増尾方面	(増尾城跡公園、広幡八幡宮、イチゴとり)
59	45	手賀沼周辺	(武者小路実篤旧居、志賀直哉旧居、杉村楚人冠、 史蹟探訪(バーナードリーチ碑等))
〃	45	柏市北部地域	(松ヶ崎覚王寺、なし狩)
60	37	手賀沼周辺	(柏寄り)北柏、柏公園、文京学園弥生式住居跡
〃	56	房総風土記の丘	
61	49	野田市運河方面	(運河、野田市山崎貝塚)

### 母子家庭レクリエーション大会

普段あまりコミュニケーションの図ることのできない母子家庭の母と子にレクリエーションを通じて、母子の愛情を育んでもらうことを目的に、母子家庭レクリエーション大会を実施しています。

昭和五十年年度から実施しているこの事業は、柏市母子福祉推



さわやかな一日

進員協議会の協力で毎年実施しており、平均百名近くの方々の参加を得ています。

### 母子家庭レクリエーション大会

開催日	開催場所	参加人員
50年8月29日	千葉県こどもの国	128
51年8月3日	千葉わんぱくランド	139
52年8月6日	〃	111
53年8月12日	〃	150
54年7月24日	〃	101
55年7月30日	〃	96
56年7月31日	横芝海のこどもの国	57
57年7月29日	酒々井ちびっこ天国	61
58年8月3日	千葉わんぱくランド	85
59年7月30日	木更津牛込海岸	75
60年8月2日	〃	86
61年7月23日	〃	95

### 交通遺児等援護基金事業

交通事故により父又は母を失った家庭で、かつ義務教育期間中の児童ならびに幼稚園児及び高等学校生徒のいる家庭を対象とし、夏季に激励金・冬季に歳末資金を配分し激励しています。ただし「柏市遺児等に対する養育手当」の受給者であること。  
。配分金の額 交通遺児一名当りの額とし一家庭四名を限度

### 配分状況一覧

単位：円

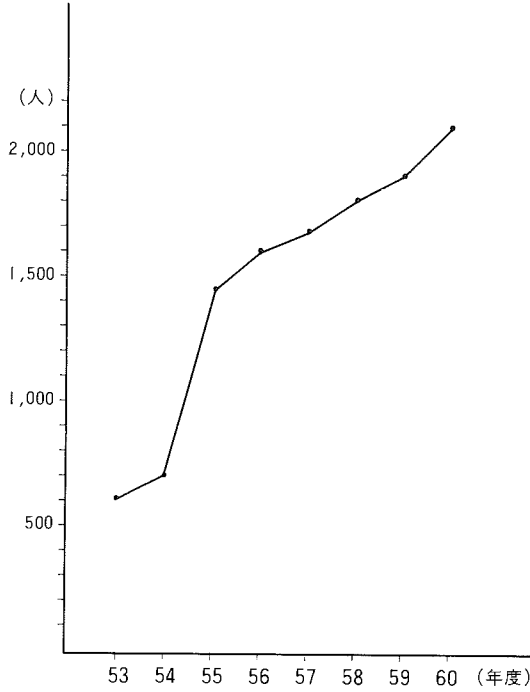
年度	夏季	対象数	人数	1名当りの額	配分額	年度	冬季	対象数	人数	1名当りの額	配分額
53	9月	40	77	10,000	770,000	53					
54	7月	72	76	15,000	1,140,000	54					
55	8月	41	72	20,000	1,440,000	55	12月	41	72	10,000	720,000
56	8月	39	67	20,000	1,340,000	56	12月	40	68	10,000	680,000
57	8月	37	62	20,000	1,240,000	57	12月	37	62	10,000	620,000
58	8月	30	49	20,000	980,000	58	12月	31	51	10,000	510,000
59	8月	27	48	20,000	960,000	59	12月	26	46	10,000	460,000
60	8月	22	38	20,000	760,000	60	12月	22	38	10,000	380,000
61	8月	19	30	20,000	600,000	61	12月	21	33	10,000	330,000

として配分します。  
夏季 一名二〇、〇〇〇円  
冬季 一名一〇、〇〇〇円

## 愛の文通活動

老人の孤独感、疎外感の解消を主目的に昭和五十三年度から南部中生徒と市内在住独居老人、市内施設入所老人との間に年賀状交換をもとに相互の文通活動からはじまり、以後福祉教育推進校の協力を得て小・中・高校生と、市内在住独居老人、高齢世帯老人、ねたきり老人、市内外施設入所老人と文通の輪を広げ行っています。

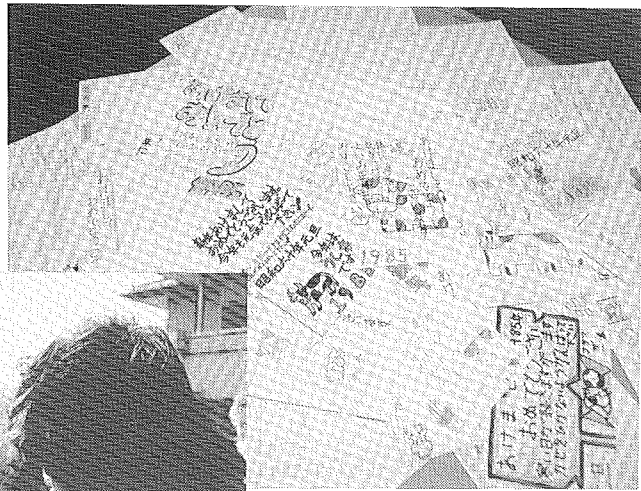
愛の文通実施状況



## 愛の文通交流会

愛の文通相手の老人と児童・生徒がペアになり、一日孫、一

日おじいちゃん、おばあちゃんとなって年一回交流会を行っています。

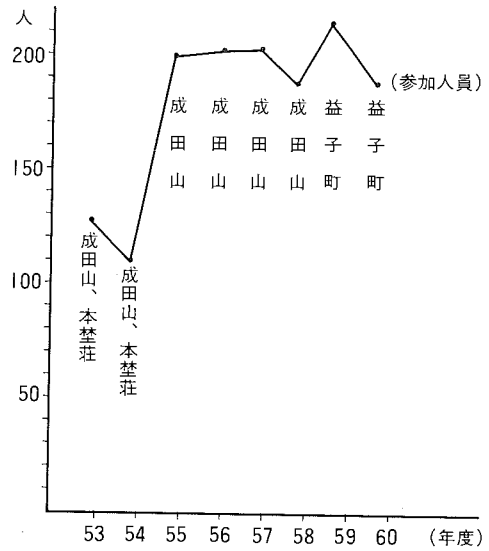


たくさんの年賀状



益子町にて、湯飲みの絵付け

参加人数の推移



福祉教育推進協力校

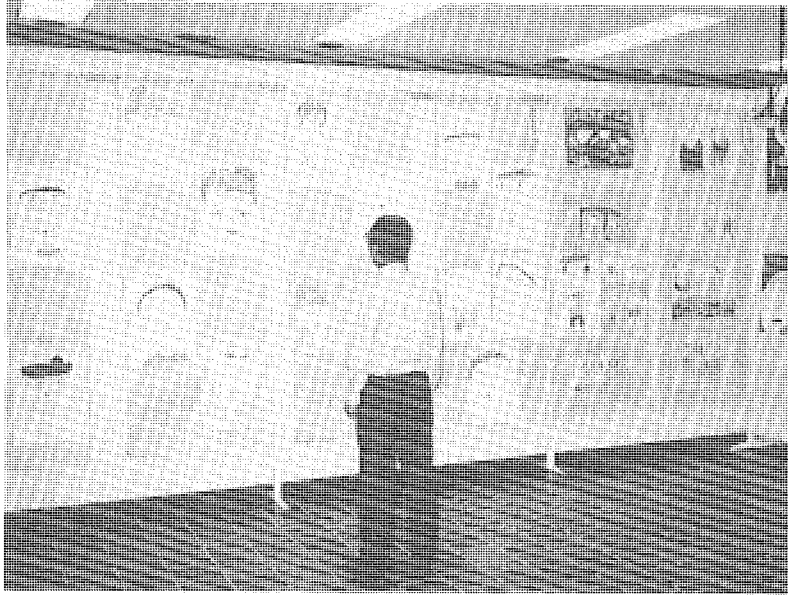
次代を担う児童、生徒に社会福祉の理解と関心を高めるため、市内小・中・高校生を対象に、学校に福祉教育推進協力校の指定をお願いします。指定終了後も引き続き福祉教育の諸活動もいただいております。その間学校の創意と工夫の中でいろいろな活動が展開され素晴らしい成果をあげております。

福祉教育推進協力校

・昭和53年度	南部中学校
・昭和54年度	南部中学校、柏第二中学校、市立柏高校
・昭和55年度	南部中学校、柏第二中学校、市立柏高校
・昭和56年度	南部中学校、柏第二中学校、柏第四中学校、市立柏高校
・昭和57年度	南部中学校、柏第二中学校、柏第四中学校、市立柏高校、富勢東小学校
・昭和58年度	南部中学校、柏第二中学校、柏第四中学校、市立柏高校、富勢東小学校 柏第七小学校
・昭和59年度	南部中学校、柏第二中学校、柏第四中学校、市立柏高校、富勢東小学校 柏第七小学校、柏第六小学校
・昭和60年度	南部中学校、柏第二中学校、柏第四中学校、市立柏高校、富勢東小学校 柏第七小学校、柏第六小学校

## 福祉の心ポスター作品展・文集「ともに生きる」

幼児期あるいは小学生時から、「隣人への思いやり」「いたわり」等福祉の心を育てるために、昭和五十六年度「国際障害者年」を記念して始め五年を経過、応募作品の内容も年毎に高まっています。

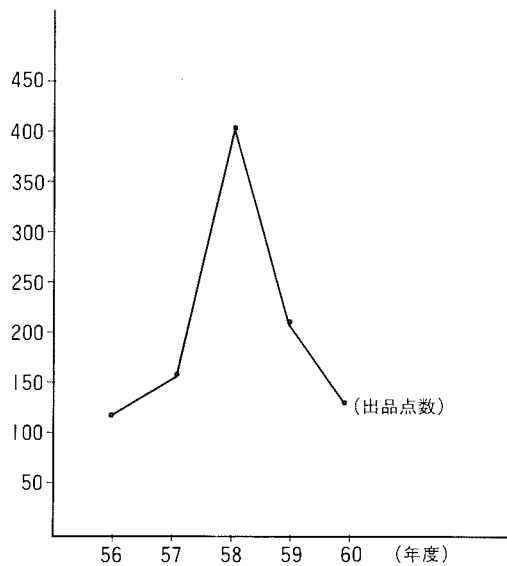


うまく描けたかな

## 文集「ともに生きる」

- ・第1号 「国際障害者年を記念して」 昭和56年度
- ・第2号 「敬老編」 昭和57年度
- ・第3号 「敬老編」 昭和58年度
- ・第4号 「福祉の心」 昭和59年度
- ・第5号 「福祉の心」 昭和60年度

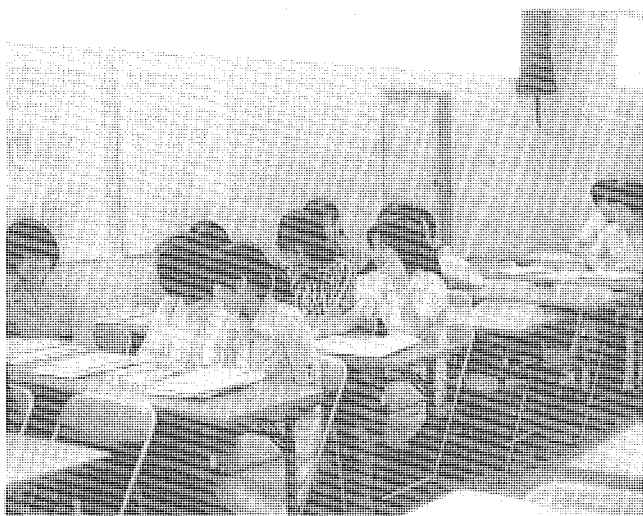
福祉の心作品展ポスター出品数



## ボランティアスクール

地域福祉を進めてゆく上で、地域の人々の参加は不可欠です。そして、福祉には特定の人だけでなく、誰でもが参加でき、また、参加なくしては地域に住む人の望む福祉社会の実現は不可能なのです。

そのために、社会福祉、特にボランティア活動を通じて、どう福祉に参加してゆけばよいのかを学ぶ、「ボランティアスクール」を開催しています。



昭和 52 年風景（青少年ボランティアスクール）

### 。初級ボランティアスクール

これからボランティア活動に参加しようという人、あるいはボランティアについて知識を得たいという人などを対象にしたボランティアの入門講座で、社会福祉の知識、ボランティア活動に必要な技術などの基本的なものを学習します。

昭和五十年に第一回を開講して以来、毎年約五十人の方が修了し、これまで延六一一人になります。

### 。中級ボランティアスクール

既に活動しているボランティアを対象にして、今後ますます需要の高まる在宅福祉サービスに対応するために、老人介護等の技術を学習します。

### 。上級ボランティアスクール

ボランティア活動を通じて得た知識、技術をもとに、より高度な社会福祉を学習することによって、今後福祉活動の指導者の役割を果たし得る資質を身につけます。

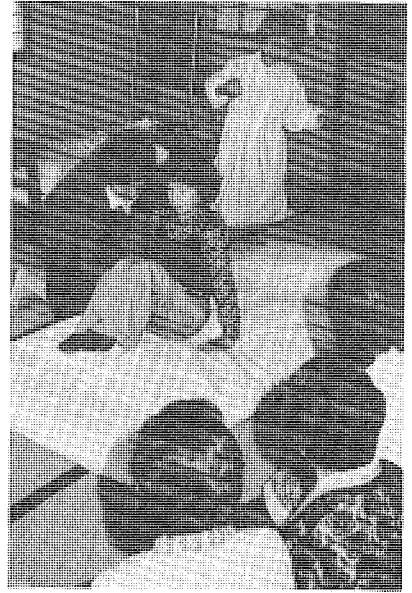
## 地域に根ざした活動

### 。ボランティアグループと個人ボランティア

社会福祉協議会に登録されているボランティアは、二十二グループ、六六〇人、個人活動している人が約五十人で、総勢約七一〇人が市内の施設や地域で活発に活動しています。



番号	グループ・サークル名	活 動 内 容	例会・活動日	活 動 場 所
1	青 和 園 グ ル ー プ	精神薄弱者通所授産施設での作業手伝い等	毎月 第1月曜日 第3金曜日	柏市立青和園
2	ひかり隣保館グループ	養護老人ホームでの老人の話相手、施設清掃等	毎月 第3火曜日	ひかり隣保館 養護老人ホーム
3	ボランティアだよりグループ	ボランティア連絡協議会の機関紙の発行	隔月発行	教育福祉会館
4	人形劇グループ	障害児(者)施設等で自作の人形劇を上演	毎月 第2木曜日 第3	教育福祉会館 市内施設
5	独居老人友愛訪問グループ	独居老人宅へ訪問し、病院へ付添、買物、手紙代筆等	随 時	市内独居老人宅
6	望 陽 荘 グ ル ー プ	特別養護老人ホームでの老人の話、手芸の講習等	毎月 第2月曜日	特別養護老人ホーム 望 陽 荘
7	育 成 園 グ ル ー プ	就学前の肢体不自由の歩行訓練介助等	月曜日 ~ 金曜日	柏市立育成園
8	拡大図書グループ	視覚障害者向けに小説、伝記等の文字を拡大して書き写す拡大図書の作成	毎月 第1火曜日 第3	教育福祉会館
9	ディサービスグループ	肢体不自由者の作業・生活訓練の介助など	毎週 金曜日	〃
10	八 幡 苑 グ ル ー プ	特別養護老人ホームでの散歩介助、話相手、買物等	毎月 第2水曜日	特別養護老人ホーム 八 幡 苑
11	シルバー訪問グループ	老人宅、有料老人ホーム訪問、老人の話相手	随 時	ボンノールガーデン 市内老人宅
12	シルバー事務グループ	使用済み切手、ロータスクーボンの収集	毎月 第2金曜日	教育福祉会館
13	シルバー拡大図書グループ	視覚障害者及び老人のために小説等の文字を拡大図書の作成	毎月 第3火曜日	〃
14	青 少 年 グ ル ー プ	児童対象の行事等の企画実施、障害者団体との交流、地域行事の手伝い等	毎月 第3土曜日	教育福祉会館 市内近隣センター
15	手話サークルかしわの会	聴覚障害者との交流、手話通訳活動、学習会	昼の部 毎週火曜日 夜の部 毎週木曜日 講習会	教育福祉会館
16	点字サークルいなほ会	視覚障害者との交流、点訳奉仕活動、学習会	昼の部毎月第1・3・4金曜日 夜の部毎月第1・3金曜日	〃
17	朗 読 奉 仕 サ ー ク ル	視覚障害者との交流、朗読奉仕活動、学習会	随 時	〃
18	し の 竹 サ ー ク ル	精神薄弱者(児)との交流、レクリエーション活動	毎月 第3金曜日	市内施設等
19	木 馬 サ ー ク ル	障害児を中心としたレクリエーション活動	毎月 第1土曜日 第3日曜日	市内近隣センター等
20	か が み の 会	病院の老人病棟での老人の散歩介助、話相手、つめ切り等	毎月 第2木曜日 第4	初 石 病 院
21	柏市ゲートボール審判員協議会	市内ゲートボール大会等の審判奉仕	毎月 第3水曜日	教育福祉会館 市内ゲートボール場
22	柏おもちゃライブラリーかたつむり	障害児向け、児童の年齢に合わせたおもちゃの貸出し、相談	毎月 第3土曜日	南増尾 公文式南増尾教室内



教養講座風景

### 。地区連絡員

ボランティアによる老人・障害者などへの在宅福祉活動や地域で開催される各種福祉行事への協力を、効率よく実施していくために、市内を十五地区に分割し、各地区のボランティアの中から一名を地区連絡員として、地区内の在宅福祉ニーズに対応でき得る連絡網をつくっています。

地区連絡員は、社協とボランティアの連絡窓口であり、民生委員、町会長・自治会長、母子福祉推進員などの福祉関係者の協力を得て、地域に根ざしたボランティア活動を展開するために必要な役割も持ち合わせています。

地域の福祉関係者による地区会議にも参加したり、民生委員とボランティアの懇談会も実施しています。

### 。ボランティア連絡協議会

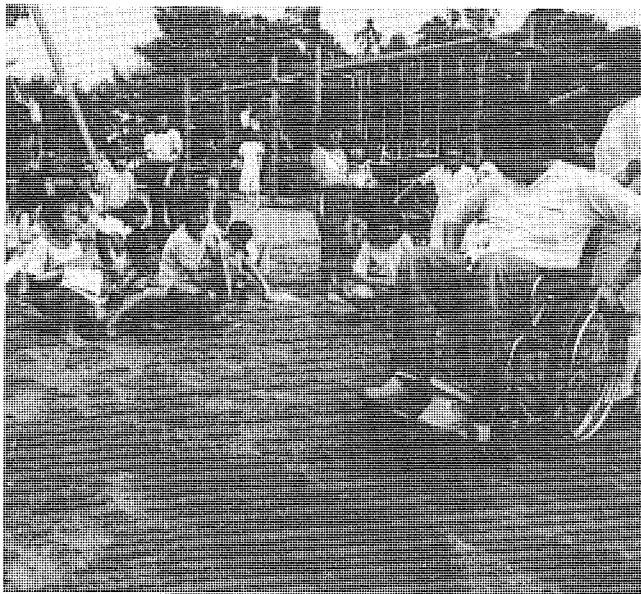
十二のボランティアグループで構成され、グループ同士が連絡、情報交換しながら施設・地域で障害者・老人を対象に活動

しています。

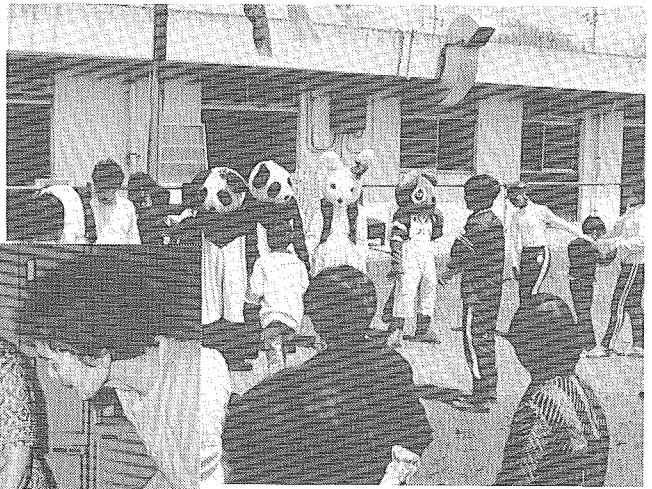
(1) 幹事会 各グループの幹事が毎月第一金曜日に集まり、活動状況を確認したり、ボランティア連絡協議会全体が参加又、企画する行事等について話し合います。

(2) 運営委員会 連絡協議会に所属のボランティアから五名を運営委員として選出し、幹事会の議題作成等を役割とします。

(3) 火曜例会 ボランティアの交流、情報交換をしながら、バザー等に出品する人形などの小物、施設に寄付する雑巾等をつくりまします。バザーの売り上げは、内外の福祉関係に寄付したり、ボランティア連絡協議会の運営費にあてられます。



車イスって大切なんだな——。



みんな仲よし

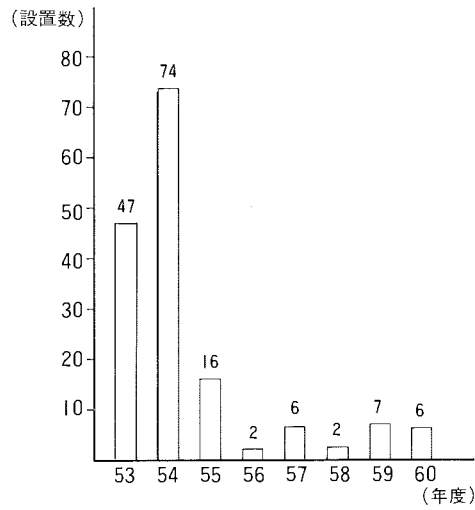


拡大写本作成風景



福祉のお知らせは、掲示板上で！

### 福祉掲示板設置状況



福祉活動啓発のため、昭和五十三年度より、各支部へ福祉掲  
示板を一ヶ所ずつ設置しています。

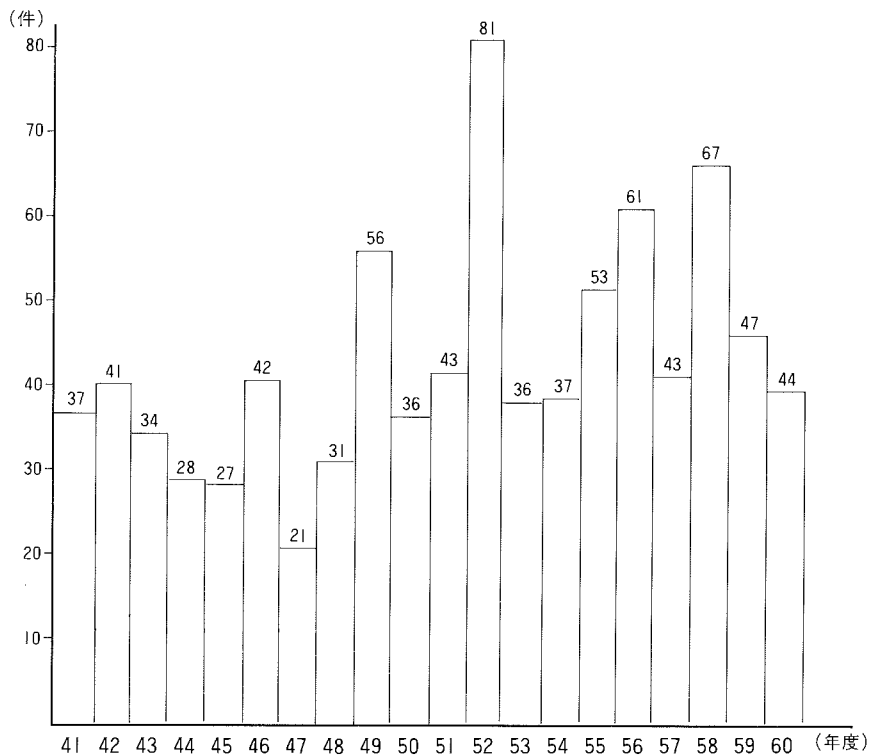
### 福祉掲示板設置について

## 福祉資金貸付制度

低所得階層に対する一つの施策として、他の福祉施策等により救済されない場合に、応急的需要をみたすため資金の貸付を行ない、自立助長と生活の安定に資する制度です。

年度	件数	金額(円)	備 考
41	37	189,877	生活資金31、身のまわり2、教育1、家屋修理3
42	41	179,730	生活資金34、教育1、その他6
43	34	179,800	生活資金32、家屋修理1、その他1
44	28	154,357	生活資金24、教育1、その他3
45	27	124,000	生活資金27、
46	42	244,380	生活資金33、支度1、教育1、身のまわり4、その他3
47	21	167,000	生活資金21、
48	31	241,000	生活資金29、その他2
49	56	359,830	生活資金53、その他3
50	36	345,000	生活資金32、その他4
51	43	568,000	生活資金38、その他5
52	81	1,277,000	生活資金78、その他3
53	36	530,000	生活資金35、その他1
54	37	672,470	生活資金37、
55	53	937,000	生活資金50、その他3
56	61	1,201,000	生活資金61、
57	43	825,000	生活資金41、その他2
58	67	1,200,000	生活資金61、その他6
59	47	860,000	生活資金38、その他9
60	44	830,000	生活資金33、その他11

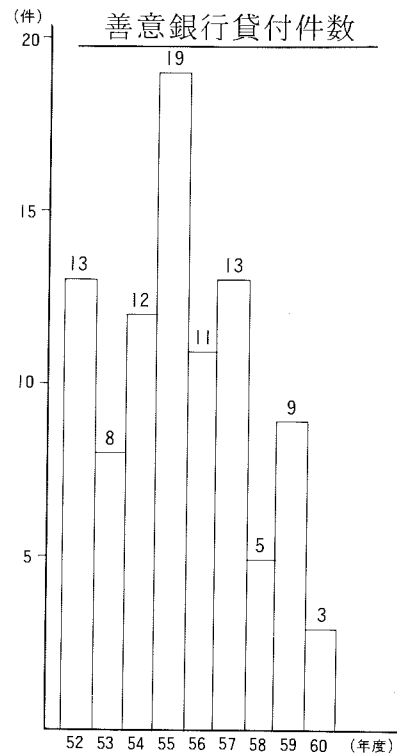
福祉資金貸付件数



## 社会奉仕活動センター(善意銀行)貸付制度

低所得世帯で貸付けに必要な援助指導を行うことにより、その経済的自立と生活意欲の助長促進に役立つことが期待できる世帯に貸付ける制度。

年度	件数	金額(円)	備考
52	13	712,000	生活5、療養2、修学支度3、生業1、その他2
53	8	535,000	療養2、修学支度1、生業1、住宅1、その他3
54	12	704,000	療養2、修学支度1、福祉1、生活3、災害1、その他4
55	19	1,120,000	生活11、療養3、修学支度2、福祉3
56	11	690,000	生活7、療養2、福祉1、その他1
57	13	1,250,000	生活5、療養2、生業2、福祉1、その他3
58	5	300,000	生業1、生活2、住宅1、その他1
59	9	650,000	生活5、療養1、修学1、その他2
60	3	148,000	生活1、療養1、修学1



## 支部長・地区長制度

社会福祉協議会の組織の強化と地域福祉の向上を図るため、昭和五十年十月町会長(自治会長)を社会福祉協議会の支部長に委嘱し、「住民福祉連絡協議会」が発足しました。その後昭和五十五年十月「住民福祉連絡協議会」は廃止され、現在の「支部長連絡会議」となりました。

社会福祉協議会の地区については、民生委員児童委員協議会の地区割と同様とし、地区内支部長のうち数名を地区長として選出うち一名が代表地区長となります。

地区福祉事業(敬老会・ふれあいの集い等)は、代表地区長を中心に地区長、支部長、民生委員、母子福祉推進員などの協

力を得て開催されています。



支部長連絡会議風景

## 地域福祉推進会議

昭和五十一年度に「地域ぐるみ福祉活動」の推進が千葉県で提唱され、柏市においては昭和五十二年八月にモデル地区として指定され地区を中心とした福祉活動の推進を図ることになりました。

活動の推進体制としては、福祉関係諸団体から選出された委員による推進協議会が設置され、福祉活動推進員が中心となって地域ぐるみの福祉活動が行われておりましたが、三ヶ年の指定が終了した昭和五十五年に「地域ぐるみ福祉推進協議会」は廃止され、現在の「地域福祉推進会議」となりました。

「地域福祉推進会議」は、福祉関係諸団体から選出された三十六名の委員により社会福祉協議会の事業計画に基づく地域における福祉活動を円滑に実施するため必要な事項を協議し、その推進を図るための機関として設置運営されております。

## 心配ごと相談

いろいろな問題で解決できずに何か困ったこと、悩みごとなどのあるときなど、どんなことでも秘密を守り親切に相談に応じています。

## 結婚相談

結婚は人生最大の課題であり、誰しも幸福な結婚生活を願わぬものはありません。

しかしながら結婚の機会に恵まれない方々のために、秘密を守り親切に相談に応じています。

## 相談日及び場所

○ 申込及び相談

毎週 日曜日（結婚相談受付）午後一時から午後三時まで

毎週 水曜日（心配ごと相談受付）午前九時から正后まで

毎週 水曜日（結婚相談受付）午後一時から午後三時まで

○ 場 所

柏市教育福祉会館 一階相談室です。

相談室電話番号 六三―二七三四

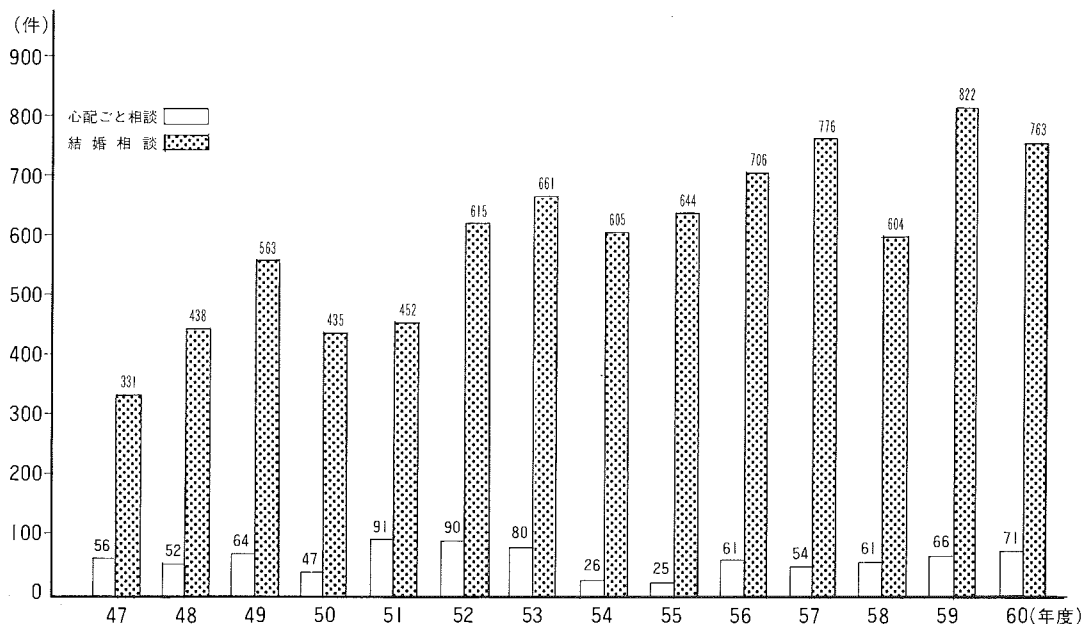
○ 必要書類（結婚相談）

履歴書・写真・戸籍謄本・健康診断書



懇親丁寧な相談

## 相談件数の推移



## 開催状況一覧

回数	開催年月日	会場	内容	入場料 円	売枚 上数 枚
1	49.12. 7	柏市民文化会館	民謡・舞踊		
2	50.12. 7	〃	民謡・歌謡・おどり	1,600	1,396
3	51.12. 5	〃	民謡・漫芸・おどり	1,600	1,597
4	52.12.11	〃	民謡・漫談・おどり	1,800	1,544
5	53.12.10	〃	民謡・漫芸・おどり	2,000	1,642
6	54.12. 9	〃	民謡・声帯模写・おどり	2,000	1,626
7	55.12. 7	〃	民謡・漫才・おどり	2,000	1,702
8	56.12. 6	〃	民謡・漫才・おどり	2,000	1,601
9	57.12. 5	〃	民謡・漫才・おどり	2,300	1,599
10	58.12. 4	〃	民謡・漫才・マジック・おどり	2,300	1,586
11	59.12. 2	〃	森山良子コンサート	2,500	1,405
12	60.12. 1	〃	芹 洋子コンサート	2,500	1,091
13	61.12. 7	〃	サーカスコンサート	2,500	1,322

歳末助けあい募金運動の一環として、市民の方々や福祉関係諸団体にご協力をいただき、毎年十二月に芸能人によるチャリティーコンサートを開催し、その利益金を薄幸な方々や施設入所者等へ配分する事業として実施しています。

## 歳末助けあいチャリティーショー事業



第10回大会風景



芹 洋子コンサート

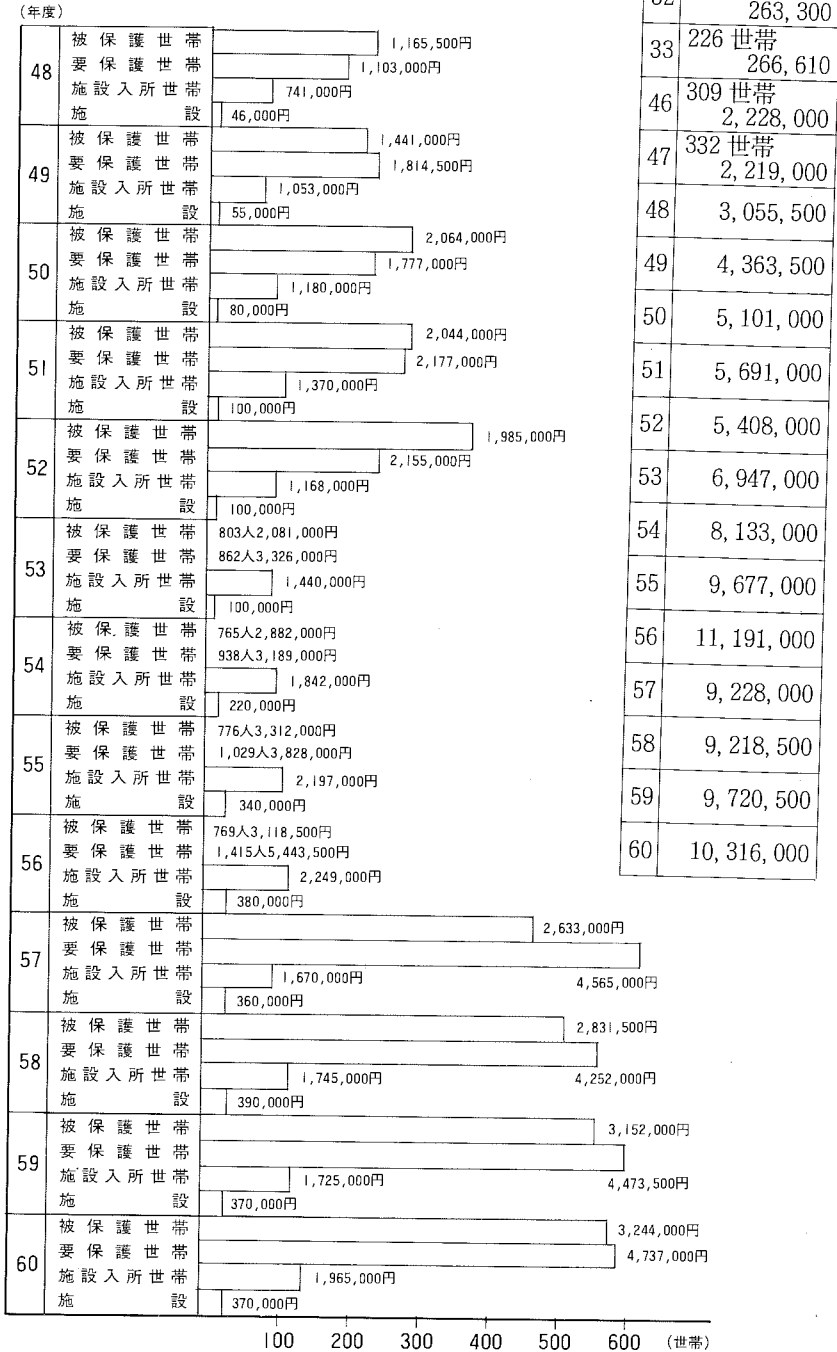


# 歳末助けあい募金配分一覧表

## 歳末助けあい配分事業

十二月から全国一斉に展開され、柏市では共同募金会柏市支会と社会福祉協議会が中心となって市民ならびに各団体等から

寄せられた温かい善意（浄財）を歳末にあたり、市内の生活困窮世帯及び福祉施設入所者等へ一日も早く自立更生され、明るい新年を迎えられることを願って配分する事業として行なわれております。



## 住民大バザール大会

時代の流れがこれまでの開発中心のものの考えから、福祉最優先へと転換しつつある状況の中で、市民各層から広く関心もたれている住民福祉について、参加者が共に考え共に行動する機会としてバザールを開き、あわせて今後の住民福祉問題を市民総参加のもとに考える事業として「みんなで出しあう善意の広場」をスローガンに、昭和五十年から七回にわたり開催しており、五十七年度からは直接地域住民の手により地域の福祉活動推進に重点をおき、地区での開催に移行することになり、その場合当協議会として協力していく方針となりました。



珍しいお手玉の販売



第2回大会風景

## 開 催 状 況

回 数	開催年月日	開催場所(即売会会場)
1	50. 3. 23	柏中学校体育館及び校庭
2	51. 3. 28	〃
3	52. 3. 27	〃
4	53. 3. 26	〃
5	54. 3. 25	〃
6	55. 3. 23	〃
7	56. 3. 22	〃
地区開催	57. 3. 28	柏市立土南部小学校 体育館及び校庭
〃	61. 7. 27	〃

### 社会奉仕活動センター(善意銀行)事業

恵まれない人、又は社会のために何かつくしたいという気持は誰でも心の底にもっています。

しかし、こういう善意をどういう形であらわしたらよいか、その方法が分らないまま心の中に埋もれたままになっている人々も多いものと思われれます。

そこで、このような善意(技能・労力・金銭・物品等)を預託という形でお預りし、希望にそって、適切な方法で預託された善意を払出し、明るく楽しい地域社会を作るのが社会奉仕活動センター(善意銀行)で、当社会福祉協議会では昭和五十一年十月から事業を開始し運営しております。

主な事業  
 〇社会奉仕(技能奉仕・労力奉仕・金銭奉仕・物品奉仕等)の預託及び払出し事業

〇低所得者、身体障害者等に対する貸付事業

# 福祉施設及び団体の紹介

# 福祉施設及び団体の紹介

## 柏市民生委員・児童委員協議会

- 一、団体名 柏市民生委員・児童委員協議会
- 二、会員数 二五一名
- 三、会長名 桑原 元次
- 四、所在地 柏市柏五―十一 柏市役所福祉部厚生課内
- 五、電話 ○四七一―六七―一一一
- 六、設立年月日 昭和二十三年
- 七、設立時の感想と現在の活動内容  
このたび先覚者の歩み、功績等を収め社会福祉協議会創立三十周年記念誌が発刊の運びとなったことは、真に意義深いものであると存じます。

民生委員制度の歴史は、昭和二年に方面委員として発足以来はや半世紀の歳月が経過いたしました。

この間民生委員は、生活保護法の補助機関、児童福祉法による児童委員等を始め、終戦後に制定された社会福祉立法の第一線運営機関としての法的な立場を占めるばかりでなく引揚者等の定着援護、留守家族、母子家庭等の相談援護、物資の配給、各種の証明、調査の受託、共同募金を初めとする各種募金への協力等々、国家的、地方的に凡ゆる社会福祉施策の推進上、重要な任務を果たす事となりました。

民生委員は、このように国民生活の安定と向上にきわめて重要な立場に立つようになつたが、これは民生委員の社会的地位の向上に直結し、一般社会からその存在を高く評価される事となつたのであります。しかしその半面民生委員に対する社会的批判も期待も大きくなるので資質の向上や、活動上の個人差を解消する事は極めて重要な問題点となるので、国に於ても、本制度を内容的に重視し従来の如く勅命によらず、国会の議決を経た法律に基く制度にする意向が固まり、昭和三十三年七月二十七日に「民生委員法」が公布されることになりました。

民生委員制度の運営は、民生委員法により、社会奉仕の精神をもつて保護指導に当たり、社会福祉の増進に努めることを本務とする民生委員は、県下各市町村に五六六二名が配置されている。また柏市に於いては、二五一名が配置され、地区住民のために、社会奉仕の精神に基づき日夜を問わず住民に接し、たゆまざる奉仕活動を続けるほか、行政機関の協力者として活躍しています。

民生委員協議会は、民生委員法の定めるところにより市内に組織され、(一)民生委員の担当区域等の決定、(二)民生委員の職務に関する連絡統制、(三)関係行政機関との連絡、(四)情報収集、(五)民生委員の互助共励、研修等の事務を行っています。また民生委員協議会には、総務・副総務を置き、会を代表しています。

本県には、現在協議会数は三二〇となっており、柏市地区には、一五の民協が配置されています。

## 柏市母子福祉推進員協議会

- 一、団体名 柏市母子福祉推進員協議会
- 二、会員数 一〇九名
- 三、会長名 仲澤まさ乃
- 四、所在地 柏市柏五―十一 柏市役所福祉部厚生課内
- 五、電話 〇四七―一六七―一一一
- 六、設立年月日 昭和三十一年七月
- 七、設立時の感想と現在の活動内容

柏市社会福祉協議会創立三十周年心からお喜び申し上げます。その間数々の福祉活動に携ってまいりました皆様には、衷心より感謝を申し上げる次第でございます。

母子福祉推進員制度は、昭和三十一年七月一日に発足いたしました。はからずも今年度は、社会福祉協議会とともに、三十周年を迎えたのでございます。すでにその記念誌は昨年刊行となり、今年度はまたそれにふさわしい行事をいたす予定でございます。

そもそもこの制度が発足しましたのは、戦後戦争未亡人など母子家庭が急増し、民生委員のみでは訪問もし難く、そのため母子家庭専門に相談指導をいたす母子福祉推進員制度が出来たのでございます。人数は民生委員の半数で、無報酬という条件で出発しましたので、全くのボランティア活動でございました。

第一回到県知事の委嘱を受けました私ども十五名は、(現在も二名がんばっております。)地区の有志を訪問いたし、そのご芳志を基に、活動を始めたのでございます。

当時は、戦死、病死による母子家庭が殆んどでございましたが、時代の流れとともに、近頃ではその六割が離婚家庭という現状でございます。

毎年四月一日現在に於ける母子家庭、寡婦家庭の調査集計をいたしておりますが、その結果六十一年度の柏市の母子家庭数は一三九八世帯、寡婦家庭は四六七世帯という数になっております。そのうち死亡その他が三八パーセント、離婚が六二パーセントの割合になっている現状でございます。そしてその各々の世帯を一〇九名の母子福祉推進員が、日夜相談指導に当たっているのでございます。母子家庭の大部分は、パートとしてそれぞれの仕事に従事し、その生活を支えております。

なおこの会の活動内容を申し上げますと、会は八地区に分かれ各地区二名の常務員計十六名にて、毎月第一木曜日に常務員会を開き、それを軸として年間の行事を営んでおります。

母子家庭に対する直接の行事としては、

- 一、五月の母の日に県から送られる激励慰問品の配布
- 二、七月の潮干狩り 毎年二地区宛 社会福祉協議会主催
- 三、十月のレクリエーション 小学生以下 バス十台
- 四、十二月の歳末たすけ合い 社会福祉協議会より
- 五、三月の卒業、入学、就職の祝金送布

母子福祉推進員の活動、研修としては、

一、毎月第一木曜日の常務員会

二、毎年四月一日現在の母子、寡婦世帯の調査集計 県に報告

三、年三回の全員協議会

四、全員並びに役員（常務員）の一泊研修

五、各地区随時の研修

以上のような活動とともに、推進員は常にその折々の相談に  
応じ、家庭訪問をいたしております。

私どもは母子福祉推進員として、常々心の福祉をモットーに  
活動してまいりましたが、この三十周年を期に更に更に母子福祉の  
充実に努めたいと、心新たにいたすものでございます。

## 東葛飾地区更生保護婦人会

一、団体名 東葛飾地区更生保護婦人会

二、会員数 一三三名

三、会長名 岡田 やゑ

四、所在地 柏市明原三―十三―十一

五、電 話 ○四七一―四五―二四六

六、設立年月日 昭和四十年八月二十一日

七、設立当時の感想

東葛飾地区更生保護婦人会は、法務省の要請を受けて、保護  
司会が中心となって結成したもので、特に此の仕事の内容を理  
解し、賛同した一般婦人の集りで、ボランティアの仕事であり  
ます。結成当時は少年非行の第二のピークと言われた後で、印  
旛少年院でも、二百五十名以上の少年を収容して居りました。

此の様な施設を見学し、又非行の状況を知るにつけ更生保護婦  
人会の重要性和、社会の母としての責任を痛切に感じとりまし  
た。

八、現在の活動内容

重点目標

(イ) 会員総参加による犯罪予防並びに少年非行防止及び、いじ  
め対策の展開

(ロ) 社会を明るくする運動への参加協力

(ハ) 関係機関団体との連携の強化

(ニ) 更生保護会並びに在会者等に対する援助協力

(ホ) 研修活動の実施と会員意識の向上

(ヘ) 有能な会員の獲得と後継者の養成

(ト) 覚醒剤等薬物乱用防止対策の推進に協力

九、活動内容

(イ) 映画会、講演会の開催

(ロ) 各種大会に参加協力

(ハ) 研修会の開催

(ニ) 施設慰問（少年院・刑務所）

(ホ) 更生保護会への資金並びに物品援助

(ヘ) 社会を明るくする運動への参加協力

(ト) 活動資金造成等

## 柏市老人クラブ連合会

一、団体名

柏市老人クラブ連合会

二、会員数 七、九五八人（二二八クラブ）

三、会長名 岸本 健一

四、所在地 柏市五十一 柏市役所福祉部老人福祉課内

五、電話 ○四七一―六七―一一一

六、設立年月日 昭和四十二年四月一日

七、設立時の感想と現在の活動内容

戦後の混乱期に呱呱の声をあげた老人クラブは、昭和三十八年七月に老人福祉法の公布とともに全国一斉にクラブ結成の開花となり、柏市においても六クラブの結成をみた。

（昭和三十八年より三十九年まで）

その後、クラブの増加に伴い連合会結成の気運が高まり、昭和四十二年四月一日柏市老連が設立され、クラブ活動は次第に強化された。泉老連は、老人福祉法制定より三年前に既に結成されていたので、柏老連は常に泉老連と連絡を密にし、常に老人相互の福祉の増進に心掛けるとともに、地域社会と密着して老人の役割を果たしてきた。

この柏市の努力は、幸にして、中央に認められ、昭和五十三年より三ヶ年間厚生省より「老人のための明るいまち推進事業（シルバークンティ・プラン）」の指定を受けた。

この指定は、千葉県で初めてであり、指定を受けた以上は責任も重大であった。事業費総額は三ヶ年で九千万円（国、県、市各三千万円負担）であった。

この事業として行ったものは、老人福祉相談、シルバー農園、老人保健教室、老人スポーツ大会、老人趣味の教室、老人演芸

大会、ハッピーホリデー、老人介護教室、老人給食サービス、国際理解教室、敬老の集い、啓蒙活動、老人意識調査、愛の文通・シルバー作品展、社会探訪、写真展、シルバークンティの育成等多岐にわたったが、この活動行事は、市民全体の積極的な協力によって成功を収めた。

この三ヶ年に築き上げた地盤に立ってその後市の福祉行政は順調に行われている。

現在老連の活動内容は、老人として社会に奉仕するため、三つのおもな活動をしている。その一つは一円玉募金で、昭和五十八年十二月に第一回の募金を行い、これまで四回の募金を行った。

その金額も、第一回は九十六万円余、第二回一〇二万円余、第三回一二六万円余、第四回一四〇万円余と年々増えている。第四回の募金は市に百万円、社会福祉協議会に四十万円献金した。

次に、毎年夏休みに老婦人が自宅で雑巾を作り、九月の新学期に各学校や公共施設に寄贈している。全体で二万枚も集り、各学校に四百枚程度配って大変喜ばれている。

また年末には各老人クラブが道路や公共施設の清掃を行って新しい気分で新年を迎えることにしている。

## 柏地区保護司会柏支部

一、団体名 柏地区保護司会柏部会

二、会員数 七五人



三、会長名 古宮 隆信

四、所在地 柏市旭町四十一―四六

五、電話 〇四七一―四五―二〇八五

六、設立年月日 昭和二十六年

七、設立時の感想と現在の活動内容

柏市社会福祉協議会設立三十周年を迎え、創立当時、諸先輩の方々のご苦勞を思う時感慨深いものがあります。またその後の会の運営にもいろいろなことがあり先輩及び事務局の御苦勞はさぞかしと存じますが、その間多くの業を残され今日の發展を見ましたことは、ご同慶にたえません。私達の会も微力ですが、お仲間として今後も働らせて頂きたく存じます。

私達の仕事は、人間への信頼感に根ざしたもので、犯罪や非行をした人達に社会生活をさせながら、自からの力で健全な社会の一員として更生できるよう指導や援助をあたえて助けていく更生保護制度の内で活躍しています。

この制度の中心は保護観察です。保護観察は、犯罪や非行をした人達のうち、その性行がさほど重大悪質でなく、刑務所や少年院に收容されなかった人、收容されても、收容後の行状が良く期間が終了する前に仮釈放になった人たちに對し、生活の目標や指針を定めて、それを守るよう指導監督をするかたわら補導援助をし、更生を促進させることと、一方環境調整など更生させるに、必要な受入態勢を整えてやることも大きな仕事ですが、犯罪、非行を予防するためにも、各種団体と協力し、「社会を明るくする運動」を展開しています。

更生保護には、地方更生保護委員会・保護観察所、その中に保護観察官、保護司、別に更生保護会、これに協力して頂いているBBS会、更生保護婦人会、協力雇用主の方々がおられます。

この仕事は、明治以前より有志の方々により手を差しのべられてきましたが、特に戦後になり、法務大臣からの委嘱された民間ボランティアで、地域の人情や習慣など良く理解されている方々が保護司となり、少年係と成人係の二種に分れて、活躍してきましたが、団体としての機能を有していませんでした。この地域は、昭和二十六年柏市・流山市・我孫子市・松戸市・沼南町の方々を集めて、千葉保護観察所管内東葛地区保護司会を結成し活動を行っていましたが、昭和三十四年松戸市は、本地区より独立し今日に至っております。東葛地区保護司会も会の運営上、紆余曲折はありましたが、現在は柏地区保護司会と名を改め、会の運営も大きく変わりました。保護司の数も七十五名となり、地区の發展と共に、年々増加して行く対象者に、今後も保護司の人数は増加せざるを得ない状況です。

よく聞かれることですが、どこの地域をどの保護司さんが、担当されているのですかと、対象者と担当保護司さんが近いのが一番良いと思いますが、地域の保護司が必ずその地域の方を補導援助するとは決っておりません。人權を尊重するため、相手の氏名や内容を保護司仲間でも、打ちあけておらず、まして地域における保護司さんの名をなるべく発表することもさけていくからです。このように細かい点に心を配りながら更生

指導に尽力をつくしている昨今です。

## 柏市日本赤十字奉仕団

- 一、団体名 柏市日本赤十字奉仕団
- 二、会員数 二九七名
- 三、会長名 中島 雫子
- 四、所在地 柏市柏五―十一 柏市役所福祉部厚生課内
- 五、電話 ○四七一―六七―一一一
- 六、設立年月日 昭和三十年四月一日
- 七、設立時の感想と現在の活動内容

当奉仕団は、日本赤十字社千葉支部設立にともない支部の活動を支援する下部組織として発足いたしました。団員は当時柏・富勢・田中・土（現逆井）の四つの婦人会を包含する、柏市連合婦人会の会員全員が即奉仕団員となりました。

発足当初からしばらくは、家庭で不要になった衣類、石けんタオル敷布等を団員が持ち寄り、また農村地区は農作物なども持ち寄って各福祉施設に寄付することを続けてまいりましたがその後、物資の豊富な時勢に移るとともに、団員の皆様から、募金を集めて、社会福祉協議会を通じて寄付することになり、現在に至っております。そのほか行事としては、毎月柏・田中・逆井の三分団の団員が、月の最終日曜日に、午前と午後の交替で、街頭献血のお手伝いしております。また年間行事としては、五月・法人社資募金、七月・社会を明るくする運動協力のため、団員からの募金、九月・防災炊き出し訓練、十月・赤

い羽根街頭募金及び県外福祉施設研修会、十一月・友愛独居老人訪問、十二月・歳末助け合い運動協力のための団員募金。また随時、団員から古切手を集め、県支部に納付したり、国内外の災害に対し、地区活動費から義援金の寄付などを行っております。

このように当奉仕団は、人道・博愛の精神をモットーとして地域に応じた奉仕活動を推進し、社会福祉の向上に努めておりますが、今後ますます高齢化社会に進むとともに、社会福祉の多様化がのぞまれる時代になりますので、団員一同赤十字精神に則り社会のニーズに即応した活動を続けてまいり所存でございます。

## 柏市身体障害者福祉会

- 一、団体名 柏市身体障害者福祉会
- 二、会員数 一九二名
- 三、会長名 神林 保夫
- 四、所在地 柏市根戸四七四
- 五、電話 ○四七一―三二―四六二三
- 六、設立年月日 昭和三十三年四月
- 七、設立時の感想と現在の活動内容

柏市社会福祉協議会の創立三十周年を心からお祝い申し上げます。

柏市身体障害者福祉会は、昭和二十五年の身体障害者福祉法の施行を受け、柏市社会福祉協議会の創立と前後して昭和三十

三年に創立、市内の身体障害者が互いに協力、親睦・交流を計り自立への道をめざし、機能回復、資質の向上の実をあげ、地域の中で福祉の向上を計ることが目的でありました。当時を振り返って見ますと、市民の皆さま、そして、行政の、身体障害者に対するあたたかいご理解・ご協力のめぐまれた環境の中で、当福祉会の創立が得られ、幸運なスタートで始まりました。

会員の増強・身体障害者に適した行事・運営等、模索の中で活動したことが今は、想い出となって居ります。しかし、すべてが順調だった訳ではありません。身体障害者の雇用状況は年々厳しさを増し、昭和三十五年には身体障害者雇用促進法が施行されました。昭和四十八年のオイルショックでは失業する会員が増え、なかでも物不足は、会員に深刻な影響を与えて居ります。喉頭に胸から管を通し、チリ紙で排泄物を拭い取るそんな障害部位をもつ会員にとって、チリ紙は必需品でした。さまざまな試練を乗り越えて昭和五十六年の国際障害者年は、身体障害者の生活意欲につながる特筆すべき年で、国民の皆さまの暖かいご理解・ご協力のうちに福祉の向上がみられ、同時に、柏市に於きましても「身体障害者福祉都市」の宣言が行われ、三年間に亘って、当時注目の「ノーマライゼーション」の理解のもと、医療・雇用・住宅・教育・文化等の、幅広い分野で身体障害者福祉の整合がなされました。また、この年五十六年四月に、柏市教育福祉会館がオープン、福祉の殿堂にふさわしい各種活動の中心をなしりハビリに於いても、大きな成果が聞かれます。

現在の本会福祉活動は、創立当初の目的にそってきめ細かな運営・活動が求められ、肢体不自由・聴覚・平衡機能・視覚・内部・音声・言語機能等の障害別、等級別、年齢差の中で、相互の協力、理解を通して調和のとれた「魅力あふれる福祉会」が合言葉となって居ります。行事として県・東葛・市のスポーツ大会、地区懇談会、社会見学会、研修旅行、ボウリング大会、五市二町芸能大会、かしわっ葉祭り、新年会、激励会等、多彩な行事が身体障害者に適した無理のない、創意と工夫のなかで実施。福祉会はこのように、市民の皆さまのご理解・ご協力のもとに、身体障害者がたどってきた輝く歴史を持つ会でございます。

#### 柏市精神薄弱者育成会（柏市手をつなぐ親の会）

一、団体名 柏市精神薄弱者育成会

（柏市手をつなぐ親の会）

二、会員数 一八〇名

三、会長名 伊藤 武

四、所在地 柏市増尾一八八五

五、電話 〇四七一一七二一四四二三

六、設立年月日 昭和四十年四月一日

七、設立時の感想と現在の活動内容

当初は、三人の親から呼びかけあい精薄児者の将来を見つめ何とか家にとじこもりきりから、この子供達への、教育、社会参加への道を見い出せないだろうかと考えながら、いろいろと話し合いを重ね、公立の施設づくりなど、実現への道を開いて

きました。それから同じように悩みを持つ親たちの数が増し、現在では一八〇名になりました。と同時に、子供達も高齢化し、悩みも変化して来ました。現在は、何かと自分達の手で環境づくりへととりくむ姿勢にかわって来ましたが、やはり社協はじめ行政のご理解、ご支援がなくてはならないのが事実です。しかし私達のモットーは、自分自身にきびしく、社会に甘えることなく頑張っていこうという考えで、自分達で歩ける所までは歩いてみようとしています。大きな問題として、学校卒後の進路が悩みの現状と、重度障害児（者）の今後の問題にあげられてもさく中です。よろしくご指導下さい。

柏市手をつなぐ親の会は、お互いに精神薄弱児（者）をもつ親達で組織されている会です。発足当初は、同じ悩みをもった親同志三人が集まり、精神薄弱児（者）の将来を見つめ、家にとじこもりきりから、何とかこの子供達の教育の場、社会参加への道を見い出せないだろうか、と立ち上がりました。

自費を出し合い小さいながらも作業所の誕生、子供達の指導など、苦勞の連続でした。しかし、くじけず頑張っていたいたおかげで、公立の施設づくりなどの実現への道を開いて下さいました。これまでの苦勞は言葉では出しきれません。

精神薄弱児（者）は、自分達の意志を表現することが非常に困難です。一人の人間として生まれてきたこの子供達にも、平等に生きる権利が与えられます。そのためには、私達親が、この子供達の代弁をしながら、さらによりよい環境を見い出し、社会的にも自立できるように手助けをしていかなければなりません。

せん。幸にも、発足当初から、たくさんの方々のご支援をいただいて来ました。現在は、柏市においても福祉都市の指定などを受けられ、かなり充実された福祉施策がとられてきていますが、まだまだ、たくさんさんの課題が山積しております。行政はじめ、社会福祉協議会、市民のみなさんのご理解とご支援をいただき、この子供達を見守ってやらねばなりません。

一方、私達親としての自覚をもち、社会への甘えから脱皮、真の目的に向って、親同志の親睦と理解を深め、共通の問題点にとりくんでいかなければなりません。

「社会に甘えることなく、自分自身にきびしく生きよう」  
これが私達の基本姿勢です。

今迄の活動記録の主なものです。

昭和39年3月 三人の母親立ち上がる

〃 40年4月 柏市精神薄弱者育成会結成

（柏市手をつなぐ親の会）

〃 40年10月 特殊教育振興大会実施

〃 41年6月 「映画会―われら人間家族―上映」

〃 41年10月 柏市福祉作業所建設運動はじまる

〃 44年1月 在宅者の実態調査する

〃 45年4月 通園施設設置の請願（市長と懇談）

〃 8月 土曜学校・青年学級開級

〃 47年4月 柏市立十余二学園開園（通所施設）

〃 48年3月 柏市議会にて、収容施設の問題出る

〃 49年6月 柏市立青和園開園（通所授産施設）

昭和49年8月 三市一町で更生施設設置運動はじまる

県立養護学校開校運動

〃 55年4月 県立我孫子養護学校開校

〃 56年4月 県立柏養護学校開校

〃 57年6月 「みどり園」更生収容施設開園（三市一町）

〃 57年7月 各精薄施設の現況調査：将来にそなえて：

〃 8月 会員全員の現況調査実施現状と将来を見る。

〃 58年3月 みどり園の増築を三市一町で首長に要望。

〃 58年6月 施設づくり推進専門部会発足

〃 58年7月 喫茶「柏っ葉」開園 会より二名働く

〃 58年8月 市へ南地域に施設づくりの要望書提出する

〃 58年11月 柏っ葉福祉まつりでバザーに参加

〃 59年5月 定時総会に自主運営作業所開所の提案し、承認される。

〃 59年7月 鈴木市長と懇談、バザー収益金を寄付する。

〃 59年10月 会員の卒業後の進路調査、対象者十八名

〃 60年2月 役員と施設推進専門部会合同会議

〃 60年2月 柏市富勢福祉作業所と正式名称決る。

〃 60年3月 臨時総会、自主運営作業所開所の件承認さる

〃 60年4月 富勢福祉作業所仮運営開始、入所者八名決る

〃 60年5月 柏市富勢作業所開所式、市長他来賓出席

〃 60年7月 三市一町役員でみどり園訪問懇談する。

〃 60年10月 肢体不自由児を育てる会と交流会開く

〃 61年5月 柏市立「朋生園」開園する。定員四十名。

仲間には、同じ苦しみ、悩みを理解し合える共通の立場の人達ばかりです。子供達のために、強いきずなで結ばれていかねばなりません。このような場を一つの組織の中で生み出そうという会が柏市精神薄弱者育成会（柏市手をつなぐ親の会）です。

### 柏市肢体不自由児を育てる会

一、団体名 柏市肢体不自由児を育てる会

二、会員数 一〇五名

三、会長名 滝本宜佐子

四、所在地 柏市今谷上町四十一十三

五、電話 〇四七一―七四―二八二六

六、設立年月日 昭和三十九年四月一日

七、設立時の感想と現在の活動内容

柏市社会福祉協議会が創立三十周年を迎えられましたこと、誠に心強く、社会福祉の推進に、ご努力されてこられた関係者皆様方のおかげで、今日がありますことを、心から感謝申し上げます。

さて、柏市肢体不自由児を育てる会は、数人の親子で、昭和三十九年に発足致しました。

当時、水道部の一隅を借りて、右も左もわからないところからスタート、ただ、子どもたちの機能訓練のために、一所懸命でした。と語る先輩の親たちの言葉を聞いておりました、その頃の社会状況の中では、さぞや不便なことが多かったことと、改めて会発足当時のご苦勞を知る思いが致します。

親子の願いも実って、柏市立育成園の開園、更には、県立柏養護学校が誕生し、乳児から義務教育まで保障されるようになった今日、これまでにはきっと多くの方々のお力添えがあったことがしのべれます。

柏市肢体不自由児を育てる会が設立されて二十二年、当時の子どもたちも成人して、それぞれの生活をしております。現在会員数一〇五名のうち、約25%が成人で、そのうち、いわゆる就職しているものは、わずかに過ぎません。重度の障害者は殆どが在宅となり、学校卒業後の生活はきびしく、そして、子どもの成長と共に親は年々老いてまいります。なんとか、子どもたちが生まれ育った柏市の中で学校卒業後の道をつくっていかなければという思いが、ここ数年の間に切実なものになってきました。

昭和五十九年度に、将来の施設づくりのために、賛助会費、或いはバザーの収益金を施設基金として、方向づけをすすめておりました折、昨年度、思いがけなく作業所建設のために、用地を提供して下さる方がいて、その有難い申し出をいただくことになりました。まだまだ先のことと思っておりました作業づくりが具体的となり、親たちの間では一層の意欲が盛り上がりました。市に助成をお願いし、おかげさまでこの五月に、かねてより念願の福祉作業所を建設することができました。

作業は、通所者七名のうち、殆んどが市のデザイナーに参加していますので、そこでの訓練内容を取り入れた作業を中心としております。そして毎週土曜日は、クラブ活動とし、会の

在学中の子どもたちも自由に参加して、会員相互の交流を深めていくことを目的としています。

この作業所建設によって、卒業後の場ができたことよろこびは勿論ですが、とかく自分のことのみにとらわれている私たち親にとりまして、容易に手にすることができない土地を貸して下さり、「子どもたちのためにがんばって」と言われた地主さんのご好意を決して忘れてはならないと思っています。

まだ作業所開所から二ヶ月余りですが、その間、多くの方々からご支援と励ましをいただきました。私たち親は、障害のある子どもをもったことで、多くの方のご好意をいただいております。ご支援に、ただ甘えることなく、私たちが自分の問題として、皆様方のご好意をしっかりと受けとめて、今後の会の発展のために、がんばってまいります。

### 柏市視覚障害者協会

- 一、団体名 柏市視覚障害者協会
- 二、会員数 五一名
- 三、会長名 吉田 征男
- 四、所在地 柏市中央二一六―十三
- 五、電話 ○四七一―六四―八二一五
- 六、設立年月日 昭和五十年三月
- 七、設立時の感想と現在の活動内容

柏市社会福祉協議会が創立されて三十周年を迎えられましたことに對し、心からお祝い申し上げます。

社会福祉協議会が創立されて以来三十年間、私たち視覚障害者の福祉のため御理解と御支援を戴きました歴代の会長さんをはじめ職員の皆様、市民の皆様に対しまして深く敬意と感謝の意を表します。

柏市視覚障害者協会は昭和五十年三月会員二十五名で発足しました。それまでは柏・我孫子・流山ではり・灸・マッサージを職業とする視覚障害者が集まり、盲人会をつくって親睦を中心に活動していました。しかし、三市合同では行政との関係がもちにくいことと中途失明者対策などもあって本会が結成されました。

結成以来十二年間、会員相互の親睦交流を深めながら諸々の運動にとりくんできました。

盲人の外出を保障するためガイドヘルパー制度や福祉タクシー制度の実現、盲人用信号機や点字ブロックの設置などにとりくみ大きな成果をあげることができました。

また、視覚障害者にとって読み書きのハンディをどう克服するかも大きな課題です。幸い会創立直後の五十年十一月障害福祉課の援助もあって柏市点字サークル「いなほ会」が結成され、五十四年四月には柏市朗読奉仕サークルが生まれ私たちの活動を支えてくれています。この二つのサークルなしには今日の柏市視覚障害者協会はありえないぐらい深くかわり、他市の視覚障害者からもうらやましがられ、柏市の視覚障害者にとって大きな宝となっています。

現在会員は五十名に増え、研修旅行、点字サークルや朗読サ

ークルとの交流会・年五回の会報発行・婦人部の活動など行事も増え、その他、スポーツ大会や柏っ葉まつりへの参加など活動も活発になってきています。そうした活動の中から昨年は水泳サークルと川柳サークルが生まれ独自に活動しています。

十二年の活動から障害者福祉は障害者自身の努力と行政そして市民の理解があって前進するのだと思います。その三者の接点であり、地域福祉の中核となる柏市社会福祉協議会の益々の御発展を祈念してお祝いの言葉といたします。

### 柏市聴覚障害者協会

- 一、団体名 柏市聴覚障害者協会
- 二、会員数 約六十名
- 三、会長名 青柳 裕喜
- 四、所在地 柏市逆井一六九四一八
- 五、電話 〇四七一一七三一一〇七三七
- 六、設立年月日 昭和四十九年九月八日
- 七、設立時の感想と現在の活動内容

#### ★現在の活動内容

聴覚障害者全般の団結と福利厚生を増進を図り、健全な社会生活を営み、以って社会経済活動に参加することを目的とする。

一年間事業計画は、

四月 定期総会

五月 県身障スポーツ大会

六月 柏市中心障害者スポーツ大会

八月十六日～十七日 キャンプ交流会

九月 第五回東葛地区ろうあ者ソフトボール大会

(船橋市)

十月 東葛身障スポーツ大会

十一月 一泊旅行

二月 スキー教室

以上で、柏市内に居住する聴覚障害者が会員に増加し、教育

・文化・健康向上に関して活動するようになりました。

#### ★設立時の感想

昭和四十九年九月八日は、柏市ろう者福祉会を設立しました。会員人数は、二十～三十名以下です。柏市に住んでいるろう者が集まって、お互いに福祉発展向上を目的として交流会を実施してきました。

### 柏市母子寡婦福祉会

一、団体名 柏市母子寡婦福祉会

二、会員数 一一八名

三、会長名 佐藤 ハル

四、所在地 柏市明原二―二―五

五、電話 ○四七一―四五―三八五五

六、設立年月日 昭和二十五年五月

七、設立時の感想と現在の活動内容

昭和二十四年、千葉県未亡人会が設立され、初代の沼田会長さんは、組織づくりのすすめに県下各地を廻られました。

翌二十五年戦争未亡人が主体となって柏町白梅会が発足しました。

戦後の混乱のなか、幼い子供をかかえて職もない母子家庭がきびしい世の中にとり残されないようにしっかり手をつなぎ助け合ってゆきましよう、強い絆で結ばれました。

当時の会は会員の生活の一部を担ってあげなければならぬ為、母の日のカーネーション、輸出の造花づくりや病人の看護お産の手伝い等、内職の斡旋で集りの機会も多く、会員は仕事と会活動を一緒にやってきましたので、集まることによって親睦やつながりも深くなり、苦しかったなかにも楽しい思い出が沢山あります。

昭和二十九年、市制施行となり、たくましい仲間が沢山入会されましたので、会活動は一段と活発になりました。

会名も「柏市未亡人会」と変わりました。

県連合会に協力して、母子会館や母子休養ホーム「なぎさの家」も出来、今は楽しく利用しています。

然し、子供を教育してゆくには、もっとしっかりした国の施策がなくては不安でありますので、全国未亡人団体は丸とあって政府や県にお願いして、母子福祉法を一つでも多く通していただくため陳情や署名運動を繰り返し、念願かなって昭和三十



十九年、母子福祉法の制定を見るに至りました。

会も柏市母子福祉会となりました。

母子貸付、母子相談員、母子福祉推進員制度、児童扶養手当又五十七年には法律改正により、寡婦福祉法の法律も出来まして柏市母子寡婦福祉会となりました。

今の母子家庭は職もあり、母子福祉法も出来、健康であれば暮しには困らないと思いますが、今一つ精神面の救いがほしいと思います。

母子家庭は勤めがあるので地域のつきあいが出来ないためストレスもたまり孤独にもなりがちです。会の集りで仲間に加えれば家庭や子供の話しなどで交流が出来て気分も軽くなります。

今の会活動は、古い会員が中心となって財源を得るための事業をしています。

母の日のカーネーション頒布、県連合会幹旋の販売、柏寿荘内の売店経営です。

行事としては、介護人派遣の窓口、県連合会主催の大会、若年研修会参加、ワンパウンド招待、母子懇談、母子家庭贈り物、一泊親睦旅行、小学校入学祝、中卒祝、特に力を入れておりますのが若年リーダーの育成と母子家庭入会の誘いです。

近年、時代の変貌と人口急増などに伴い、若い母と子の家庭がふえ続けております。

古い会員は老齢化してゆきますので、後継者づくりのために若いリーダーによって集まる場、活躍の場のもてる組織づくりにと努力しています。

## 柏 B B S 会

一、団体名 柏 B B S 会

二、会員数 十七名

三、会長名 浅井 久泰

四、所在地 柏市旭町二十一九

五、電話 ○四七一―四四―七三三三

六、設立年月日 昭和五十一年九月四日

七、設立時の感想と現在の活動内容

当時の会員数は、十名で発会式を行いました。活動は、地味であるため、設立当時から会員としていまでも活動しているのは、四名その他の会員は毎年変ると言う状態がここ七、八年は続き、一つの問題ではないかと思っております。やはり保護司会との連携で非行のない明るい社会を目指し頑張っておりますが、これから会員全員が地味ではあるが楽しい、また勉強となるような会を盛り上げて行きたいと思っております。この会は、全国的であり、県でも八つの B B S 会が登録されています。活動は各地区一、二、三つのケースを持ち、友だち活動を続けており、柏も一つのケースを持っております。

柏市社会福祉協議会の設立三十周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

柏市制とともに、社会福祉の事業を遂行されてきましたことは、柏 B B S 会として深く感銘し、尊敬している次第であります。

昨年「国際青年年」と言うことで住民福祉大会におきまして青年団体の代表として発表させていただきました。私達の主としている活動は、不幸にして非行に陥ってしまった少年・少女を善導し、その更生を助け、良き兄・姉であると言う『友だち活動』をすることであり保護司会の下で地道に行っているボランティア活動であります。また、私達も、社会福祉協議会をはじめ各関係機関ならびに各団体等の御協力・御支援を承り十年を迎えることが出来ましたこと深く感謝している次第でございます。改めて会の難しさ、活動の難しさを痛感しております。私達の活動はほんの一握りにすぎませんが、社会福祉の問題は多種多様であります。こうした背景のもと社会福祉協議会の設立当時は様々な問題を抱え苦難の毎日であったこととお察し申し上げます。松崎会長さんをはじめ職員の方々の御努力が実を結ばれ今日を迎えられたと思います。しかし、忘れてならないのは「陰の力」ではないでしょうか。この「陰の力」こそこれからの社会福祉事業発展のため今まで以上の力となり、また、社会福祉協議会も邁進されることと思えます。二十一世紀には高齢化社会が大きく指摘され「地域ぐるみの福祉」が重要な役割をするとお聞きいたしました。福祉問題について今まで以上に難しい局面と遭遇されると思えますが、社会福祉協議会が先駆者として行政との良きパイプラインとなり、事業を推進していただきたいと思えます。また、私達BBS会も弱体ではございますが多少なりとも協力させていただければ幸いです。社会福祉のため引き続きご尽力をお願い申し上げます

とともに、三十年間にわたる社会福祉協議会の御努力に心から敬意を申し上げ今後益々のご発展をお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。

### 柏光会豊四季光風園

- 一、名称 社会福祉法人柏光会豊四季光風園
- 二、所在地 柏市十余二字梅林五八四番地
- 三、開設年月日 昭和三十四年十二月十八日創立  
昭和三十五年十二月二十日認可
- 四、人所人員 創立時三十五名 改築後五十四名
- 五、設置及び経営 社会福祉法人 柏光会
- 六、理事長 松崎良太郎
- 園長 横山 紀武
- 七、開設時の感想と現在の内容

光風園は今はなくなりました豊四季病院の一角に三十四年十二月木造平家建に定員三〇名で発足いたしました。当時はまだ精神薄弱児対策がようやく緒についたばかり、とても重症心身障害児対策までには至っておりませんでした。従って重度の障害児を持った父兄の苦しみは大変なものでした。そこで、これら重度の障害児を受入れて、児童とその家庭の援護にあたるという目的で光風園は設立されました。

そこで開園と同時に入られたお子さんはいづれも脳性小児マヒによる四肢の障害と、てんかん発作を持ったものが大多数を占め、朝の眼ざめから夜ねるまでの行動も、横になったきりの

もの、這いまわるか、つかまり立ちのできる程度の子どもたちばかりでした。

いづれもオムツを着けています。着替えやオムツの交換はされても、自然に汚れたものの臭いが室内に漂い、初めて光風園を訪ねられた方にはなんとたまらないことでした。

それでも、家庭での狭い室に閉じこめられたところから解放され、同じ症状の子ども達が一緒に、催物や慰問を受け、家庭では味えないふん囲気に浸れたことは、子ども達にとってはほんなに良かったか、また父兄の重荷を幾分でも軽減させたことは、確であったと思います。

昭和四十年になってようやく国の重症心身児対策が発足し、在園児童も遂次国立又は国の委託する重症心身児施設へ移れることとなりましたが、それでも寝たきりの女子が光風園を退園いたしましたのは五十二年の二月でした。入園して十六年間の長い園生活でした。

四十年十二月現在の園舎に移りました。新しい園舎になってからは寝たきりのお子さんの受入れはなくなりましたが、精神障害の極めて重い、いわゆる最重度域の障害児、知能の発達が一歳程度で、自分で衣服の着脱、洗顔、排泄などのできないお子さんが大勢おります。現在、男三六名、女九名計四五名のうち量重度域二七名、重度域一六名、中度域二名で、うちてんかん発作のため服薬中のもの一六名おります。

在園児のうち就学年齢の者は柏養護学校へ通園しております。小学部に七名、中学部に一五名、高等部に一二名計三四名が毎

日通学しております。既に学校を卒業した子で成人施設へ入所を希望しながら待機している子が八名もおります。

これら年長児のうち作業指導についてゆける子は園外の畑に出かけて職員によって作業指導を受けております。

いづれも重度の障害児でありますからこの指導も大変困難があります。

精神薄弱児と共に生活するには、愛情と根気が最も必要なことであります。指導の成果はまことに遅々としたものではあります。職員一同一生懸命に頑張っております。

各方面からの温いご支援にお応えし、これからも一層努力をいたします所存でございます。

## ひかり隣保館養護老人ホーム

- 一、名称 ひかり隣保館養護老人ホーム
- 二、所在地 柏市十余二一七五
- 三、開設年月日 昭和二十五年十一月一日
- 四、入所人員 九十名
- 五、設置及び経営 社会福祉法人 千葉県厚生事業団
- 六、敷地面積 一九、五四三㎡
- 七、建物面積 二、四七六・三九㎡
- 七、開設時の感想と現在の内容

昭和二十二年頃、旧軍事治療施設であった土地建物を、千葉県当局は大蔵省から借り受け、元青森県知事、大島博氏の妹美代氏に「母子寮」を経営させたが、諸般の事情から経営が困難

になった為、中止するのやむなきに至った。そこで県は、この施設を、養老院並びに保育園の設置に切りかえようとし、その運営を当時、県下唯一の社会福祉事業団体である、財団法人千葉厚生事業協会（会長千葉県知事 川口為之助）に委託することになり、昭和二十五年八月一日、委託に関する契約を締結した。県から委託を受けた同協会は、昭和二十五年十一月、生活保護法による養護施設として定員三十名をもって発足した。

昭和二十七年五月、社会福祉法人の認可をうけた財団法人千葉厚生事業協会は、組織替えをし、社会福祉法人千葉厚生事業団と名称を変更した。その後、経営は順調な歩みを続け、養老院は、昭和三十二年に定員を五十名に変更し、昭和三十八年老人福祉法の施行に基いて、養護老人ホームとなった。

昭和四十年一月、定員を七十名に変更し、以来十数年間に亘り、老朽施設に修理を加えて維持管理にあたってきたが、昭和五十七年、法人認可三十周年を迎えるに当り、記念事業としてホームの全面増改築を断行し、定員も九十名に変更して現在に至っております。

施設の現況は、入所老人の平均年齢が七十八歳で、入所要件としては、経済的理由や住宅事情又は家庭内の事情等で、居宅で生活しにくい場合に施設を利用して頂くほか、家族が冠婚葬祭等で一時的に家をあける場合には短期入所としての制度もあり、大変地域住民からも喜ばれ利用して頂いております。費用その他詳しい事は地元の市町の福祉の窓口で照合して下さい。

さて、ホームの生活ですが明るく楽しい老後を送って頂くこ

とをモットーに、老人の居室は全て二人制で十畳のスペースとなっており、そのほかに娯楽室、食堂、浴室、医務室等生活の中での共通の設備が完備され、モダンな建物とマッチされ、老人にとっては至極便利な機能型態となっております。日常生活は日課、週間、月間、年間の行事予定に支えられ、規則正しいサイクルで潤いのある日々が送れる様に配慮され、四季折々の諸行事や各種のレクリエーション、そして協力病院によるゆき届いた健康管理、そして老人の身体を考慮した食生活と、あらゆる面にてバラエティな生活がエンジョイできる様に、職員、老人一体となって取組んでおり、入所老人達の自主組織も存在し、老人達が有用感を見出すと共に、真の生活の場としてのホームを、認識してもらっております。中でもサークル活動は盛んで、華道・茶道・書道・詩吟・俳句・踊り・手芸・歌・音楽鑑賞・スポーツ等、数多くそれぞれの趣味を通じ集団生活での人間関係の円滑に努めております。又、虚弱老人には、日常生活相談や身辺介助を通じ心身の安定を図っております。

それから、地域との交流も盛んに行われ、ボランティア活動や、演芸グループ、施設見学者等、各方面からの来訪も多く、又、当方よりも老人を対象にした地域の行事には積極的に参加し、それらを通じ施設の活性化に努めております。

高齢化社会が進んでいる今日、老人ホームの果す役割も益々重要で大切かと思われまます。社会の多様なニーズに対応すべく関係者一同励んでおりますので皆様方のご理解とご支援を願う次第です。

## 軽費老人ホーム望陽荘

- 一、名称 軽費老人ホーム望陽荘
  - 二、所在地 柏市大青田一―二
  - 三、開設年月日 昭和五十一年四月一日 開設
  - 四、入所人員 五十名
  - 五、設置及び経営 社会福祉法人 望陽会
  - 六、敷地面積 二、九七五㎡
  - 七、建物面積 一、四〇三㎡
- 七、開設時の感想と現在の内容

木々の緑、やさしい陽の光、山藤の薄紫に美しく染める林の小径を小綬鶏親子ののどかな散歩姿、野鳥の囀りと隣接の幼稚園での可愛い園児の歓声とが快よく調和してなんと心なごむこの大青田の地に地域の人々の熱い眼差しの中で忽然と姿を現わした望陽荘。医師である理事長が地域での長い医療活動を続けながら多くの老人と接し『今誰かが作らなければ…』と云う切なる思いを多くの方々がそれぞれのお立場で理解し暖かく支えて下さいました。老人とそしてその家族の倅せの為にささやかなお手伝いをこの私の手で…と心を動かし昨日迄の主婦達は今日はホームの職員としてさわやかに変身したのです。さあ、それからが大変!! 老人と職員との泣き笑い人生が始まったのです。職員の家族の仕事への理解と協力も大きな陰の力でした。が、何よりも皆心身共に健康で仕事に打ち込んでくれた事が倅せでした。老人の優しい思いやりに励まされ、そしてその生き

方に自分達の人生の得がたい教訓を受けながら理事長の灯した老人福祉と云う小さな灯を消すまいと職員一同実に素晴らしいパワーで老人を、そしてホームを支えてくれた事はとても有難い事でした。

『荆棘林中一条の路』路のないところにもじっと足もとを見つめていると路が開けてくる。決して楽な直線コースではありませんが曲った道を曲りなりに真直歩くと云う人生の智恵も学んだのです。自分達の歩いたあとが道になる…そんな思いで十年開設当時の職員の苦勞は言葉につくせぬものがあつた事と思います。お互いに何も知らぬ人々が心を開き信頼関係を築き上げる事の難しさ大切さを知りました。老人と職員全員で庭の土をおこしバケツリレーで砂を運び花壇を作り一人一人が芝を手植して汗を流し何処かで何かに参加し心から我が家と思えるような暖かい魅力あるホーム作りをと懸命な毎日でした。ふれ合いと支え合いの精神で地域福祉の為に尽されてここに立派に三十七周年をお迎えの社協の皆様には本当にお世話になりました。

ほのぼのとした愛の文通心暖まる中高生交流会、敬老会等々…ユニークな活動を通して老人達に様々の楽しい思い出を下さいました。社協の皆様方の業績を讃え心より感謝申し上げますと共に更に大きく飛躍なさり地域福祉の為により素晴らしい力を發揮して下さいる事を心より願って居ります。望陽荘もお陰をもちまして創立十周年を迎える事が出来ました。意義深いこの61年に同じ喜びを分ち会える事は忘れがたい年となる事と思えます。様々な出会いと出来事の中で貴重な歳月を経て老人達も入所当

時の淋しさや辛さを忘れ人生の流れを素直に受け止め、人々の善意と真心に感謝しつつ美しく上手に年をとりたいと一日を大切に生きて居ります。四季の移ろいの中で楽しく語り合う庭の花、月亭慰霊室の積香界、生きがい作りのローズルーム、地域の方達と共に励む陶芸室、家族の宿泊室叶和苑、毎日皆の願いを聞きながら静かに微笑むお地蔵様、恵まれた環境、すべて整った設備の中で今、静かに余生を送る老人達の日々が健やかである事を祈りつつ職員も十年の経験を活かし自信と責任、軽費老人ホームとして果して来た役割を確認し明日へ向けての良き処遇をめざし愛され信頼される施設としての在り方を考えつつ心をひきしめ十一年目をスタートさせたところです。望月慶子

### 特別養護老人ホーム望陽荘

- 一、名称 特別養護老人ホーム望陽荘
- 二、所在地 柏市大青田一―二
- 三、開設年月日 昭和五十二年四月一日
- 四、入所人員 五十名
- 五、設置及び経営 社会福祉法人 望陽会
- 六、敷地面積 八八〇㎡
- 建物面積 一三五・三㎡
- 七、開設時の感想と現在の内容

六十一年も七月の或る朝、静かなたたずまいの中で、この静寂をやぶって「ヨイショ」、「ヨイショ」の元気なかけ声が朝のすみきった空気をふるわすようにして聞えてくる。軽費老人ホ

ームの老人と職員との体操のかけ声である。……時計の針が頂度十時を回ったと思う頃車椅子の一団が一組、二組と門の外に出ていく、車椅子に乗っている人、介助されながら歩いていく人、……これは特別養護老人ホームのボランティアグループの方々による朝の散歩風景の一齣である。

これが過ぎると又元の静寂そのものに返る。…中庭には数知れない草花が生い茂っており全くのどかな感じそのものである。ここ柏市の一角、流山市と入りくんだところ大青田一―二流山市江戸川台に医院を開業する望月先生が、「誰かがやらなければ」という切なる想いから開設された社会福祉法人望陽会がその運営に当たっている軽費老人ホーム望陽荘として特別養護老人ホーム望陽荘の朝の情景である。

昭和五十年、法人設立、五十一年軽費老人ホームオープン、翌五十二年特別養護老人ホームオープン、柏市・柏市社協・地域の方々そしてご家族の温かいご支援をいただきながら月日は流れて一〇年の歳月が過ぎ去った。

以下特別養護老人ホームについて過ぎ去った一〇年の歳月に想いを馳せ思いだすまま書き綴って見たいと思う。

何事でもそうであるように物事を始めようとすれば多かれ少かれ苦労の伴なうものであるが、その一端を羅列して見たいと思う。

その一 或るご老人はご夫婦で入所していたが、子供達の費用負担が大変だろうということで職員がよく説明してあげても理解してもらえず或る風雨の強い夜ホームを抜け出してしまった。

その二 糖尿病のご老人が甘いものを食べすぎないようにとの注意を気にして飛び下り自殺をしようとした。その三 男女関係から寮母に嫉妬して自殺さわぎをおこす。等々これはその一端にすぎないが、その対応は非常にむづかしい。しかしその反面毎月行われているお誕生会に泣いて喜ぶ姿を眺めるとき、又リハビリの効果があがり寝たきりの方が起きられるようになり、歩けないご老人が歩けるようになった例は枚挙にいとまがない。

この様に職員が努力が効を奏したときの喜びも又一人のものがある。その他発病して医師診断の結果入院が適当と認められても家族の方の意見がこれに伴わず入院を断念し、医師職員が一体となってこの治療看護に当たる。この様なことも度々あるが、こうして誠心誠意治療、看護に当たってもその甲斐もなく終末を迎える例もある。勿論終末を迎えるのはこの様な場合だけではないが開設以来多くの方々の葬送を行ってきたが、入所ご老人にとってホームは生活の場であり、家族の一員である。この時の淋しさ、やるせなさば表現のしようがないものがある。この様にして過ぎ去った一〇年間をふり返って誠に感無量のものがある。

柏市社協三十周年を心からお祝い申し上げますとともに益々のご発展のご祈念申し上げます。

## 特別養護老人ホーム八幡苑

一、名称 特別養護老人ホーム八幡苑

二、所在地 柏市篠籠田一三九〇

三、開設年月日 昭和五十八年四月六日

四、入所人員 五十名

五、設置及び経営 社会福祉法人 豊珠会

六、敷地面積 三、三〇六㎡

建物面積 一、七四二・二六㎡

七、開設時の感想と現在の内容

柏市社会福祉協議会が、創立三十周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

また、日頃からボランティア活動を実践されている皆様に対して深く感謝の意を申し上げます。

さて、私共の施設は、昭和五十八年四月六日に開苑して速くも四年目を迎えました。

開設時の事を思いうかべますと、開設九十日目にして満床の状態となり一日として安息の時がありませんでした。

特に、各市町村の入所依頼に対し不馴れでもあり十分に対応できなかった事に対し今にして見ますと、残念でなりません。

当時私共が老人福祉施設職員として、御老人を施設に迎え入居者の方々に充実した生活がおくれるようにと生活の場づくりに取り組として歩みはじめました。

現在の所、その苦勞が幸いし、福祉事業にたずさわる関係各位の御指導とご支援もあってすっかり落ち着いた雰囲気の中で入居者と職員が一体となり、自立援助を基本としての業務を進めております。

今後施設の役割として在宅老人福祉サービスの実施と生きが

い対策という大きなテーマをもって施設もこの機能を地域社会に活用できるように努めてゆくことは、重要な課題と思われる。

また、地域の社会福祉協議会と施設がたがいに、協力しあい、地域の人々の福祉向上のためさらに一層その努力を重ね地域ニーズに添えてゆきたい、そのためにも、今後とも、地域社会とのきめ細かい交流が必要でしょう。

新しく目芽える動向に注目しながら高齢化社会の基盤作りを、行政、住民、施設と社会福祉協議会のもとにきざくことが必要と思われま。

今後とも、貴会の益々の御発展と福祉の充実と向上を期待し、柏市社会福祉協議会の皆様の御活躍を心からお祈り申し上げます。

## おお田保育園

- 一、名称 法人設立おお田保育園
- 二、所在地 柏市大青田字水砂一五〇九番地一二
- 三、開設年月日 昭和五十一年四月一日
- 四、入所人員 六十名（0歳児産休明け〜6歳児まで）
- 五、設置及び経営 社会福祉法人 千草会ちくさかい
- 六、敷地面積 六四四・一四㎡
- 七、建物面積 二八六・二三㎡

十年以前の福祉の現場は（特に保育所の数）今のように多く

はなく、此の田中北部地区、田中地区、西原地区には、一ヶ所もなかったが、当地域にも、たしかに保育に欠ける乳幼児は存在した。その時の現状を踏まえ、その子達の幸せを、どう充たそうか、そして子供達のもつ秘められた能力を引出し、やがて社会人になった時、他に迷惑をかけず、一人ひとりが少しでも幸せな生活が出来ますようにと祈って、法人設立、おお田保育園が誕生しました。

十年を経過した今現在は、開設当初からの保育方針の、  
・何でも食べる元気な子  
・ハイノとお返事明るい子  
・ガマンの出来るかしい子の三原則に向い、いま尚、邁進している。  
幸い園児達は0歳産休明けから6歳までと、年齢層が厚いせいもあり、おもしろいのある、心豊かで、明るい生活を送っております。これはみな、おお田保育園を取りまく社会の皆様方のご協力があったこそと、常々感謝しながら、運営にあたっております。

## ひかり隣保館保育園

- 一、名称 ひかり隣保館保育園
- 二、所在地 柏市十余二東一七四
- 三、開設年月日 昭和二十五年十月六日
- 四、入所人員 定員一〇〇名
- 五、設置及び経営 社会福祉法人 千葉県厚生事業団
- 六、敷地面積 八、七一二㎡
- 七、建物面積 七七七・四八㎡



七、開設時の感想と現在の内容

世紀の大戦にやぶれ、親を失い、夫を失った人々を救済するため、県は昭和二十二年から、東葛飾郡旧中村（現柏市）十余二の、旧軍時施設であった、東部第五百部隊飛行隊所属の将校集会所、および同宿舎を大蔵省から無償貸与を受け、

元青森県知事、大島博夫氏の妹、大島美代氏に、母子寮を、経営させることにした。しかし、その母子寮は、多額の費用がかさみ、運営困難となった為、昭和二十五年六月一日付をもって、その運営を解除するの止むなきにいたった。よって、

県は、こんどは同地域に、隣保施設を企図し、その運営を、千葉県厚生事業協会に委託した。昭和二十五年八月一日に両者は、その委託に関する契約を締結したのである。

その後の発展過程は次の通りである。

事業開始 昭和二十五年十月六日 定員六十名

組織変更 昭和二十七年五月二十日 社会福祉法附則第十一項により、社会福祉法人 千葉県厚生事業団と改称

定員変更 昭和二十九年六月一日 定員九十名認可

定員変更 昭和三十九年四月一日 定員一二〇名認可

宮内庁よりの賜金年月日 一、昭和三十二年四月二十九日

二、昭和三十六年四月二十九日

定員変更 昭和四十五年四月一日 定員二五〇名認可

定員変更 昭和五十八年四月一日 定員一五〇名認可

定員変更 昭和五十九年四月一日 定員一〇〇名認可

昭和四十八年のオイルショックを境に不況と称されているが、

出生児減少の一方で、幼保施設等の増加となり、三歳児の中で約二千名は幼稚園に入園する時代となったこと。以上

地域ぐるみ福祉ネットワーク事業の概要

# 地域ぐるみ福祉ネットワーク事業の概要

## 目 的

千葉県では、昭和六十一年度から五ヶ年計画により県内の社会福祉協議会を中心に「地域ぐるみ福祉ネットワーク事業」を推進することになりました。

これは、昭和五十二年度より千葉県提唱の「地域ぐるみ福祉事業」の計画に伴ない各市町村では地域福祉の向上に取り組みますが、福祉に対する需要は社会生活の変化に伴ってますます多様化してきております。そこで、高度化する在宅福祉サービスに対応するため、更に効果的にきめ細かく対応できる新たな福祉のシステムづくりを推進するため新規事業として取り組むことになったものです。

## 事業の内容及び推進方法

### 主な事業内容は、

- 1 援助が必要な人に必要な時、対応できる援助体制の確立
- 2 家庭や地域で安心して暮らせる福祉サービスの確立
- 3 福祉の心を育て、共に生きる社会の形成

を実現するために、地域住民、民間福祉団体、県、市町村が一体となって福祉サービスのネットワークづくりを進め又、地域における福祉の推進体制を確立するため、

### 1 小域福祉圏 概ね小中学校校区を単位

### 2 基本福祉圏 市町村単位

### 3 広域福祉圏 支庁単位

の三層の福祉圏を設定することとし、それぞれの福祉推進組織をつくり機能を発揮し、連携をはかって総合的に地域ぐるみ福祉を展開しようとするものです。

当社会福祉協議会におきましては、今年度から従来の社協の地域組織の強化を図り小域福祉圏、基本福祉圏の組織づくりを進めて行く計画ですので皆様方のご協力をお願い致します。

三十周年記念誌

発行日 昭和六十二年二月二十八日

発行 社会福祉法人

柏市社会福祉協議会

印刷 株式会社 秋元印刷